

K-577

米沢市埋蔵文化財報告書 第84集

遺跡詳細分布調査報告書

第17集

住宅開発分布調査
大規模開発関係分布調査
大浦B遺跡発掘調査
京塚古墳確認調査
館山城跡関連確認調査

2004

米沢市教育委員会

遺跡詳細分布調査報告書

第17集

住宅開発分布調査
大規模開発関係分布調査
大浦B遺跡発掘調査
京塚古墳確認調査
館山城跡関連確認調査

2004

米沢市教育委員会

序 文

本報告書は、米沢市教育委員会が平成15年度に、国庫補助事業として実施した「遺跡詳細分布調査」の成果をまとめたものです。

米沢市教育委員会は、埋蔵文化財の周知を図るため、遺跡詳細分布調査を平成元年から17年間継続しております。調査を重ねることは、埋蔵文化財の所在の解明につながります。

今年度の遺跡詳細分布調査では、宅地開発関係の発掘調査、古墳群及び館跡の確認調査、館跡の略測量調査を実施いたしました。また、宅地造成に係る試掘調査においては、新規に大西遺跡を確認することができました。

本調査の成果を上げることができたことは、関係各位のご理解とご協力の賜ものと感謝申し上げますとともに、今後とも開発事業に対し、円滑な調整を図り、可能な限り力を注いでゆく所存であります。

最後になりましたが、調査に際しご指導を賜りました文化庁、山形県教育庁社会教育課文化財保護室をはじめ、地権者各位並びに地元の皆様に対し、心からお礼申し上げます。

平成16年3月

米沢市教育委員会
教育長職務代理者
教育次長 松 坂 昭

例 言

- 1 本報告書は、文化庁の補助を受けて実施した、平成15年度の遺跡詳細分布調査報告書である。
- 2 調査は米沢市教育委員会が実施した。
- 3 調査期間 平成14年4月7日から平成16年3月31日
- 4 調査体制

調査主体	米沢市教育委員会
調査総括	村野隆男（文化課長）
調査担当	手塚 孝（文化課文化財担当主任）
調査主任	菊地政信（文化課文化財担当主任） 月山隆弘（文化課文化財担当主任）
調査補助員	近野慶子・笹川由紀・高橋正子
調査参加者	嵐田良晴・江袋吉男・遠藤富男・菊地政和・工藤敏夫・ 菊地政和・佐藤四郎・清水弘文・高橋俊介・竹田三男・ 中村正弘・丸山忠俊・水野とも子
事務局長	情野憲治（文化課長補佐兼文化財主査）
事務局	深瀬順子（文化課文化財担当主査）
調査指導	文化庁・山形県教育庁社会教育課文化財保護室
- 5 挿図の縮尺は、第Ⅰ節の第1図～第27図は1万分の1、第28図～第44図は5千分の1である。

第Ⅱ節～第Ⅳ節は、挿図毎にスケールで示した。第Ⅰ節の挿図は上部が磁北を示しており、他は各挿図に示した。挿図内の図化及び記号は、TY-柱穴、DY-土廣、KY-溝跡、P-ピット、AZ-土器、DZ-金属製品、T-トレンチを示す。写真図版の縮尺は適宜行っている。
- 6 出土遺物は、米沢市埋蔵文化財資料室（米沢市万世町桑山269-3）に保管している。
- 7 本書の作成は、第Ⅰ・Ⅳ節が月山隆弘、第Ⅱ・Ⅲ節は菊地政信、全体について手塚 孝が総括した。
- 8 調査にあたって、小野里一栄・加藤浩樹・金田八良・金松寺の各氏及び関係各位のご協力を得た。記して感謝申し上げます。

本文目次

序文	
例言	
第Ⅰ節 埋蔵文化財調査経過	
1 開発に伴う遺跡の確認調査	1
2 大規模・公共事業開発に伴う試掘調査	1
第Ⅱ節 大浦B遺跡第Ⅹ次調査	
1 遺跡の概要	25
2 調査に至る経過と調査の経過	25
3 検出遺構	29
4 出土遺物	29
5 まとめ	33
第Ⅲ節 京塚古墳群の調査	
1 調査の目的	34
2 調査の経過	34
3 調査の成果	37
4 まとめ	52
第Ⅳ節 館山城館跡関連確認調査	
1 遺跡の概要	53
2 調査の経過	53
3 遺構・遺物の概要	56
(1) 館山南館	
(2) 館山東館	
4 まとめ	56
報告書抄録	59

附表目次

表-1 分布調査箇所	2
表-2 公共事業関連分布調査箇所	3
表-3 大規模開発分布調査箇所	3

插图目次

第1图	大西遺跡位置図	4	第2图	台坂遺跡位置図	4
第3图	佐氏泉館位置図	4	第4图	大壇A遺跡位置図	5
第5图	下花沢b遺跡位置図	5	第6图	塩野坊中屋敷館跡位置図	5
第7图	城西一丁目遺跡位置図	6	第8图	耳取b遺跡位置図	6
第9图	館山平城跡位置図	6	第10图	花沢A遺跡位置図	7
第11图	元立遺跡位置図	7	第12图	上谷地B遺跡位置図	7
第13图	十文字西遺跡位置図	8	第14图	三合目館跡位置図	8
第15图	上谷地D遺跡位置図	8	第16图	三沢b遺跡位置図	9
第17图	米沢城跡位置図	9	第18图	米沢城跡位置図	10
第19图	下花沢A遺跡位置図	10	第20图	花沢A遺跡位置図	11
第21图	大壇A遺跡位置図	11	第22图	花沢A遺跡位置図	12
第23图	館山平城跡位置図	12	第24图	館山平城跡位置図	13
第25图	下花沢b遺跡位置図	13	第26图	館山平城跡位置図	14
第27图	大西遺跡調査区位置図	15	第28图	李山調査区位置図	16
第29图	花沢町調査区位置図	16	第30图	徳町調査区位置図	17
第31图	塩井町調査区位置図	17	第32图	塩井町調査区位置図	18
第33图	川井調査区位置図	18	第34图	八幡原調査区位置図	19
第35图	中田町調査区位置図	19	第36图	成島町調査区位置図	20
第37图	窪田町調査区位置図	20	第38图	三沢字白旗調査区位置図	21
第39图	徳町調査区位置図	21	第40图	金池調査区位置図	22
第41图	芳泉町調査区位置図	22	第42图	六郷町調査区位置図	23
第43图	福田町調査区位置図	23	第44图	台ノ上遺跡調査区位置図	24
第45图	大浦B遺跡位置図	26	第46图	大浦遺跡群調査箇所位置図	27
第47图	大浦B遺跡第X次調査区位置図	28	第48图	大浦B遺跡第X次調査遺構全体図	30
第49图	大浦B遺跡第X次調査遺構平面図	31	第50图	大浦B遺跡第X次調査出土遺物実測図	32
第51图	京塚古墳群位置図	35	第52图	京塚古墳群・成島古墳群分布図	36
第53图	京塚古墳群測量図	40	第54图	京塚古墳群4号墳現況測量図	41
第55图	京塚古墳群4号墳測量図	42	第56图	京塚古墳群6号墳測量図	43
第57图	京塚古墳群6号墳トレンチ配置図	44	第58图	京塚古墳群6号墳トレンチセクション図	45
第59图	京塚古墳群6号墳セクション図(A-T)	46	第60图	京塚古墳群6号墳セクション図(B-T-D-T)	47
第61图	京塚古墳群6号墳セクション図(D-T)	48	第62图	京塚古墳群6号墳セクション図(C-T)	49
第63图	京塚古墳群6号墳トレンチ平面図	50	第64图	京塚古墳群6号墳主体部平面図	51
第65图	館山城跡全体図	54	第66图	館山南館跡平面図	55
第67图	B Y 1掘立柱建物跡平面図	57	第68图	館山東館跡遺構平・断面図	58

附図 1 館山南館跡略測量図

附図 2 館山東館跡遺構全体図

図 版 目 次

- 図版 1 大浦B遺跡第X次調査 (調査区全景, プラン確認状況)
- 図版 2 大浦B遺跡第X次調査 (調査風景, KY1セクション)
- 図版 3 大浦B遺跡第X次調査 (出土土器)・館山東館跡 (出土遺物)
- 図版 4 館山東館跡 (全景, 近景)
- 図版 5 館山東館跡 (DY1土壙, DY2土壙)
- 図版 6 館山東館跡 (DY3土壙, DY4土壙)
- 図版 7 館山東館跡 (DY5土壙, 調査風景)
- 図版 8 京塚古墳群 (京塚古墳群全景, 1号墳後円部近景)
- 図版 9 京塚古墳群 (6号墳全景, 6号墳発掘調査風景)
- 図版10 京塚古墳群 (Cトレンチ周溝セクション状況, Cトレンチ墳丘盛土セクション状況)
- 図版11 京塚古墳群 (墓壙プラン確認状況, 主体部プラン確認状況)
- 図版12 京塚古墳群 (Cトレンチ完掘状況, 主体部中央セクション状況)
- 図版13 京塚古墳群 (主体部西端セクション状況, 主体部西端セクション状況)
- 図版14 京塚古墳群 (主体部東端セクション状況, 主体部中央礫出土状況)
- 図版15 京塚古墳群 (主体部掘り下げ状況, 主体部中央セクション状況)

第Ⅰ節 埋蔵文化財調査経過

1 開発に伴う遺跡の確認調査

本年度、本市教育委員会に住宅開発等によって、埋蔵文化財に係わりがあると判断されることから、協議や分布調査等の確認依頼を受けたのは、平成16年3月26日現在で68件あった。この中で、遺跡包蔵地及び包蔵地以外を含め、試掘調査、立会い調査、確認調査を実施した60件の内訳は下記のとおりである。

- | | | | |
|------------------|-----|--------------------|----|
| (1) 住宅建設に係わるもの | 31件 | (2) 店舗・事務所建設に係わるもの | 4件 |
| (3) 工場・倉庫等に係わるもの | 1件 | (4) 砂利採取に係わるもの | 4件 |
| (5) 土地開発等に係わるもの | 4件 | (6) その他の開発等に係わるもの | 7件 |
| (7) 公共事業等に係わるもの | 9件 | | |

以上のように、今年度の試掘調査を実施したのは31件あり、種別は例年と同様、住宅開発に係わるものが大半を占めており、次いでその他の開発、公共事業、店舗・土地開発に係わるものであった。上記の分布調査の概要は、大規模開発と区別し調査箇所・調査月日・開発種別・調査方法等を表-1分布調査箇所に一括し、遺跡範囲位置図と調査地点を第1～17図にまとめた。

今年度の分布調査で遺構・遺物等が確認されたため、発掘調査に至った遺跡は、個人住宅関係では大浦B遺跡があり第Ⅱ節で報告する。確認調査を実施した京塚古墳群については第Ⅲ節で、また平成13年度に緊急発掘調査した館山北館跡の隣接地、館山東館跡の分布査及び館山南館跡の略測量調査の結果を、第Ⅳ節にまとめて報告する。

今年の宅地開発等の分布調査は例年に比較すると、開発件数が少ないことから、埋蔵文化財に係わりがある開発は減少傾向であった。

2 大規模・公共事業開発に伴う試掘調査

本市教委では、遺跡の周知徹底を図るために遺跡の有無に係らず、開発面積が1,000㎡以上を大規模開発の目安としており、各開発者に分布調査依頼書を提出していただき、試掘調査を実施している。今年度、大規模開発には18件の分布調査依頼があり、砂利採取が4件と一番多く、次いで宅地造成、老人ホームが各々2件あった。過去に隣接する試掘調査結果から、旧河川跡等と判断され遺跡地図確認のみで対処した箇所が今年度は多い。

営利目的の開発で発掘調査に至った遺跡は、集合住宅に伴う米沢城跡、宅地造成関係では、新規に確認された大西遺跡の2遺跡があり、調査経費に関しては、現地調査費を原因者、遺物整理・報告書作成等の経費は市で負担し、報告書は個々に今年度刊行する予定である。

以上、大規模開発に係る試掘調査の概要は、表-3大規模開発分布調査箇所に一括し、位置図と調査箇所を第27～44図にまとめた。

公共事業の開発については、道路・水路等の開発であるため、事前に試掘調査を実施することが困難であることから、全て立会いでの調査を実施した。表-2大規模開発分布調査箇所に一括し、位置図と調査箇所を第18～26図にまとめた。

表-1 分布調査箇所

No	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	大西	窪田町小瀬字大西712外	4月7・8日	宅地造成	トレンチ	1m×12m 8本
2	台板	下花沢3丁目-1806	4月8日	個人住宅	トレンチ	1m×12m 3本
3	米沢城	丸の内2丁目-3060-2	5月8日	個人住宅	トレンチ	1.5m×10m 2本
4	米沢城	松が岬1丁目-4787-1外	5月15日	集合住宅	トレンチ	1.5m×30m 2本
5	台板	下花沢3丁目-1794-3外	5月26日	個人住宅	トレンチ	1m×10m 2本
6	大塚A	諾弘町字諾弘3758-4	5月27日	個人住宅	トレンチ	1m×18m 1本
7	米沢城	門東町1丁目-3008-5外	5月30日	集合住宅	トレンチ	1.5m×12m 4本
8	下花沢b	下花沢1丁目-11-3	6月18日	個人住宅	トレンチ	1m×9m 2本
9	塩野坊中屋敷館	塩井町塩野2035	6月26日	個人住宅	トレンチ	2m×30m 3本
10	米沢城	門東町2丁目-3040-6	7月9日	事務所	トレンチ	1m×6m 1本
11	米沢城	丸の内1丁目-10-8	7月18日	個人住宅	トレンチ	1m×7m 2本
12	米沢城	城南1丁目-45	7月22日	個人住宅	トレンチ	1m×15m 2本
13	城西一丁目	城西1丁目113-3	7月22日	個人住宅・店舗	トレンチ	1m×11m外 1本
14	耳取b	万世町堂森63-1	7月23日	車庫	トレンチ	1m×10m 2本
15	米沢城	丸の内1丁目-3101-1外	7月28日	個人住宅	トレンチ	1m×10m 1本
16	館山平城	館山2丁目-6394-1外	8月8日	集合住宅	トレンチ	2m×18m外 1本
17	米沢城	丸の内1丁目-4743-3	8月8日	個人住宅	トレンチ	1m×19m外 1本
18	花沢A	駅前3丁目-6-38	8月21日	個人住宅	トレンチ	1.2m×10m外 3本
19	元立	大字川井字元立2078	8月21日	個人住宅	トレンチ	1m×10m 2本
20	上谷地D	大字川井字上谷地519-1	8月25日	個人住宅	トレンチ	2m×10m 2本
21	佐氏泉館	駅前3丁目-1912-8外	9月4日	個人住宅	遺跡地図確認	
22	米沢城	丸の内1丁目-3099-2外	9月10日	個人住宅	トレンチ	1m×10m外 1本
23	館山平城	吹屋敷町804-2	9月18日	個人住宅	トレンチ	1m×12m外 1本
24	三合目館	大字下新田字三合目免2434-2	9月30日	個人住宅	トレンチ	1m×9m 2本
25	花沢A	駅前4丁目-2602-5	10月1日	車庫	トレンチ	1m×7m 2本
26	上谷地B	大字川井字上谷地地内	10月1日	道路(住宅)	トレンチ	2m×30m 2本
27	三沢D	大字三沢26120-39	10月2日	個人住宅	トレンチ	1m×7m外 2本
28	城西一丁目	城西1丁目-113-3	10月15日	個人住宅	トレンチ	1m×12m外 1本
29	十文字西	万世町牛森矢道東4272-11外	10月23日	個人住宅	トレンチ	1m×14m外 1本
30	花沢A	駅前4丁目2551-11	11月7日	個人住宅	トレンチ	1m×10m外 1本
31	米沢城	松が岬2丁目-4730-6	12月8日	集合住宅	トレンチ	2m×20m 2本
32	米沢城	城南1丁目7-20	2月24日	個人住宅	トレンチ	1m×8m 2本
33	米沢城	松が岬2丁目1-82	3月19日	個人住宅	トレンチ	1m×6m 2本

表-2 公共事業関連分布調査箇所

No	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	米沢城	丸の内1丁目地先	4月10日	石積工	立会い	1m×100m1本
2	下花沢A	下花沢2丁目110-1外	4月21-25日	鋼橋	立会い	0.5m×100m1本
3	花沢A	花沢町1丁目2517-2外	5月28日	下水道	立会い	1m×158m1本
4	大塚A	大字笹野地内	7月1日	道路	立会い	4.3m×105m1本
5	花沢b	駅前4丁目地内	6月11日	道路	立会い	1m×170m1本
6	館山平城	館山4丁目地内	9月24日	流雪溝敷	立会い	1.8m×116m1本
7	館山平城	館山4丁目6446-16外	10月2日	水路	立会い	1m×107m1本
8	下花沢b	下花沢1丁目地内	10月30日	水道	立会い	1.5m×113m1本
9	館山平城	館山2丁目地内	1月13日	水路	立会い	1m×70m1本

表-3 大規模開発分布調査箇所

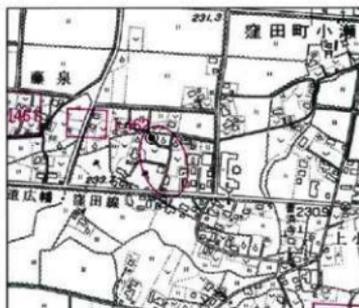
No	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	大西	窪田町小瀬字大西712外	4月7・8日	宅地造成	トレンチ	1m×12m8本
2	該当なし	大字孝山地内	4月22日	砂利採取	遺跡地図確認	
3	該当なし	花沢町2698-1外	4月25日	宅地造成	トレンチ	2m×50m外2本
4	該当なし	徳町408外	5月7日	老人施設	遺跡地図確認	
5	該当なし	塩井町塩野字町畑下648-2	5月20日	宅地造成	トレンチ	2m×10m16本
6	台ノ上	吾妻町57-2外	5月21-23日	宅地造成	トレンチ	2m×35m1本
7	該当なし	塩井町塩野字塚場5095外	8月22日	砂利採取	遺跡地図確認	
8	該当なし	広幡町沖中2023外	8月22日	砂利採取	遺跡地図確認	
9	該当なし	八幡原1丁目地内	10月2日	事務所・工場	トレンチ	2m×10m13本
10	該当なし	中田町字中谷地式外	10月2日	集合住宅	遺跡地図確認	
11	該当なし	成島町3丁目2684-1	10月17日	老人施設	遺跡地図確認	
12	該当なし	窪田町窪田字鍋田地内	10月23日	集合住宅	遺跡地図確認	
13	該当なし	大字三沢字白旗1-1外	11月10日	産業廃棄物処理施設	遺跡地図確認	
14	該当なし	徳町440-1外	11月17日	店舗	遺跡地図確認	
15	該当なし	金池5丁目8-9外	12月8日	集合住宅	遺跡地図確認	
16	該当なし	大字芳泉町字御鷹野道地内	12月18日	工場	遺跡地図確認	
17	該当なし	六郷町字轟字九根掘208外	1月16日	砂利採取	遺跡地図確認	
18	該当なし	福田町2丁目1757-2	2月2日	店舗	遺跡地図確認	

3 試掘調査状況

1 大西遺跡

本遺跡は、窪田町小瀬字大西に位置し、標高約233m、沖積性の自然堤防上に立地した微高地で、現況は休耕田・畑地外になっている。

今回の申請は宅地造成に伴うものであり、開発範囲14,092㎡に2m×50mのトレンチ外10本を設定した結果、東側を中心とする5本のトレンチから方形・円形周溝墓や、平安時代の柱穴・土塼、また中世期の箱形形態の堀跡が確認された。以上のことから、開発予定地のうち特に遺構が集中して検出された東側部分にあたる約2,500㎡については発掘調査が必要であることを、開発者に報告し同意を得た。



第1図 大西遺跡位置図

2 台坂遺跡

本遺跡は、下花沢三丁目付近の調査した結果、開発予定地のJR米沢駅北側約200mに位置し、最上川の河岸段丘の標高244mに所在する。東西400m×南北650mに分布する縄文時代の遺跡である。

今回の申請は2件あり、2件ともに個人住宅建設に伴うものである。当該地にそれぞれ1m×12m・1m×10mのトレンチを2・3本設定し調査した結果、表土下40～50cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。A・Bともに遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。



第2図 台坂遺跡位置図

3 佐氏泉館

本遺跡は、JR米沢駅北西約200mに位置し最上川の河岸段丘の標高250mに所在する。東西100m×南北80mの範囲に分布する中世期の遺跡である。今回の申請は1件で、個人住宅建設に伴うものである。当該地は、数年前に3m以上盛土をした箇所であり、構築物によって遺構面までの削平は至らないことから遺跡地図のみの確認をした。しかし工事の際、遺構・遺物等が検出した場合は速やかに連絡することを告げ、念のため慎重工事を指示した。

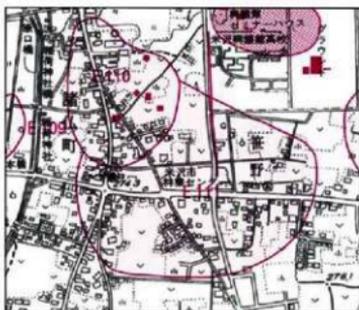


第3図 佐氏泉館位置図

4 大壇A遺跡

本遺跡は、笹野地内の市街地南側約6kmに位置し、標高274mに所在する。東西550m×南北450mに分布する縄文時代の遺跡である。当該地付近には大壇B・C、大塚山遺跡等の遺跡が隣接して広範囲に分布する地域である。

今回の申請は1件で、個人住宅建設に伴うものである。当該地の中央部に1m×18mのトレンチを1本設定し調査した。その結果、表土下50～60cmが、茶褐色シルトの地山層が確認された。遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。



第4図 大壇A遺跡位置図

5 下花沢b遺跡

本遺跡は、万世町片子地内のJR米沢駅南東側約400mに位置し、最上川の河岸段丘の微高地、標高257mに所在する。東西200m×南北600mに分布する縄文の遺跡である。

今回の申請は1件で、個人住宅建設に伴うものである。当該地に1m×9mのトレンチを2本設定し調査した結果、表土下40～60cmで、茶褐色シルト及び砂利層の地山層が確認された。遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。



第5図 下花沢b遺跡位置図

6 塩野坊中屋敷館跡

本遺跡は、塩井町塩野地内の市街地北側約2kmに位置し、鬼面川の河岸段丘、標高約239mに所在する。東西500m×南北900mに分布する中世の遺跡である。

今回の申請は1件で、個人住宅建設に伴うものである。当該地に2m×30mのトレンチを3本設定し調査した結果、表土下40～60cmで、茶褐色及び青褐色シルトの地山層が確認された。遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。



第6図 塩野坊中屋敷館跡位置図

7 城西一丁目遺跡

本遺跡は、城西一丁目地内の米沢城跡南西側400mに位置し、標高251mに所在する。東西170m×南北200mに分布する縄文の遺跡である。

今回の申請は2件で、A・Bともに個人住宅建設に伴うもので現況は畑地である。当該地にAは1m×11m外1本、Bは1m×12mのトレンチ外1本設定し調査した結果、表土下40～60cmで、黄褐色粘土質の地山層が確認された。遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。



第7図 城西一丁目遺跡位置図

8 耳取b遺跡

本遺跡は、万世町堂森地内のJ R米沢駅北東側約2kmに位置し、独立段丘の堂森山縁辺部、標高255mに所在する。東西100m×南北150mに分布する縄文の遺跡である。

今回の申請は1件で、車庫建設に伴うものである。当該地に1m×10mのトレンチを2本設定し調査した結果、表土下50cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、既存の建物により地山層は攪乱しており、遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。



第8図 耳取b遺跡位置図

9 館山平城跡

本遺跡は、市街地西方約3kmに位置し、標高約260mに所在する。当該地西方1.5kmには、標高約330mの館山城跡が分布する。遺跡は東西1.2km×南北1kmに分布する中世の遺跡である。遺跡範囲には数箇所の縄文の遺跡が含まれている。

今回の申請は1件で、集合住宅の建設に伴うものである。当該地に2m×18mのトレンチを外1本設定し調査した結果、表土下50cmは砂利層で地山層は確認されなかった。遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。



第9図 館山平城跡位置図

10 花沢A遺跡

本遺跡は、J R米沢駅北東側400mに位置し、標高約250mに所在する。遺跡は東西400m×500mに分布する縄文の遺跡である。当遺跡付近には数箇所縄文の遺跡が存在する。

今回の申請は2件あり、A・Cは個人住宅、Bは車庫の建設に伴うものである。当該地にAは1.2m×10mの外3本、Bは1m×7m外2本、Cは1m×10m外1本のトレンチを設定し調査した結果、表土下40～50cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。

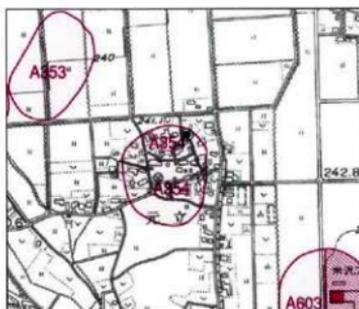


第10図 花沢A遺跡位置図

11 元立遺跡

本遺跡は、市街地東方約3kmに位置し、標高約241mに所在する。遺跡は東西200m×南北200mに分布する奈良・平安の遺跡である。

今回の申請は1件で、個人住宅の建設に伴うものである。当該地に1m×10mのトレンチを2本設定し調査した結果、表土下40cmで、茶褐色細砂質シルトの地山層が確認された。遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。

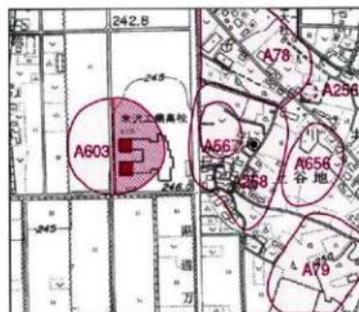


第11図 元立遺跡位置図

12 上谷地B遺跡

本遺跡は、市街地北東方約3kmに位置し、県立工業高等学校の東側、標高約246mに所在する。遺跡は東西200m×南北300mに分布する縄文・古墳・中世の複合遺跡である。遺跡範囲には数箇所の縄文の遺跡が含まれている。

今回の申請は1件で、土砂の入れ替え後、個人住宅建設に伴うものである。当該地に2m×10mのトレンチを2本設定し調査した結果、表土下40cmで、茶褐色シルトの安定した地山層が確認された。遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。



第12図 上谷地B遺跡位置図

13 十文字西遺跡

本遺跡は、万世町牛森地内のJR米沢駅北東側約3kmに位置し、標高266mに所在する。東西100m×南北100mに分布する中世の遺跡である。当遺跡1km範囲には縄文の遺跡が広範囲に密集する地域である。

今回の申請は1件で、住宅建設に伴うものである。当該地に1m×14mのトレンチ外1本設定し調査した結果、表土下60cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。



第13図 十文字西遺跡位置図

14 三合目館跡

本遺跡は、JR置賜駅北西側200m、大字下新田に位置し、標高221mに所在する。東西200m×南北400mに分布する中世の遺跡である。

今回の申請は1件あり、個人住宅建設に伴うものである。当該地に1m×9mのトレンチを2本設定し調査した結果、表土下40cmで、暗褐色シルトの地山層が確認された。しかし、ほとんどが既存の建物によって遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。

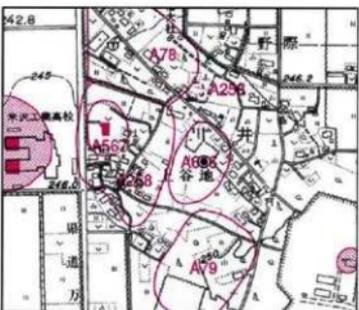


第14図 三合目館跡位置図

15 上谷地D遺跡

本遺跡は、市街地北西方約3kmに位置し、標高約246mに所在する。遺跡は東西100m×南北200mに分布する縄文の遺跡である。遺跡は東西1.2km×南北1kmに分布する中世の遺跡である。遺跡付近には数箇所の縄文の遺跡が存在する。

今回の申請は1件で、道路（住宅）の建設に伴うものである。当該地に2m×30mのトレンチを2本設定し調査した結果、表土下50～80cmと起伏があり、黄褐色粘土質シルトの地山層が確認された。遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。

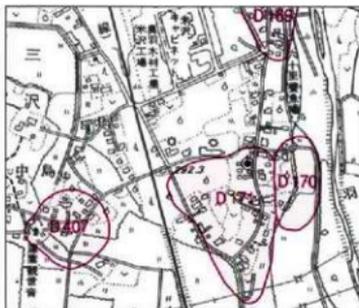


第15図 上谷地D遺跡位置図

16 三沢b遺跡

本遺跡は、市街地南東約4kmに位置し、羽黒川の河岸段丘、標高約292mに所在する。遺跡は東西200m×南北300mに分布する縄文の遺跡である。

今回の申請は1件で、個人住宅建設に伴うものである。当該地に1m×7mのトレンチ外2本設定し調査した結果、表土下50cmで、茶褐色シルトの地山層が確認された。しかし、遺構・遺物等は検出されなかったが、念のため慎重工事を指示した。



第16図 三沢b遺跡位置図



第17図 米沢城跡位置図

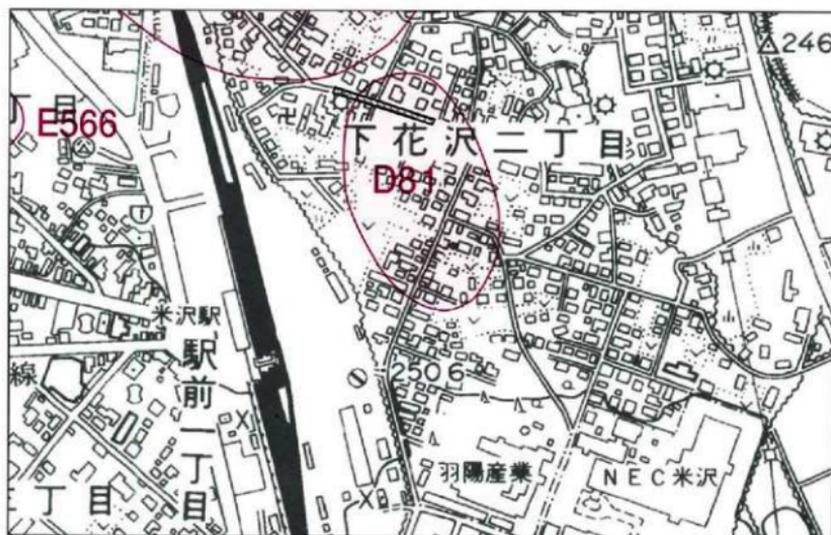
17 米沢城跡

本遺跡は、市街地の松が岬公園一帯に所在し、標高248～252mに所在する。遺跡は、本丸跡、二の丸跡、三の丸跡の一部を含め東西約770m×南北900mの約690,000㎡の広範囲に分布する。当該地には今回12件の申請があり、A・E～I・K・Lは個人住宅、B・C・Jは集合住宅、Dは事務所の建設に伴うものであった。当遺跡付近の地山層は、表土下50～80cmが、茶褐色及び黒褐色粘土質シルト層であった。C調査区（東三の丸）の1箇所を除く、外の調査箇所では、遺構・遺物等が検出されなかったことから、念のため慎重工事を指示した。東三の丸跡に関しては、遺構が検出したことから発掘調査に至った。この報告書は今年度刊行する予定である。

公共事業関係分布調査箇所



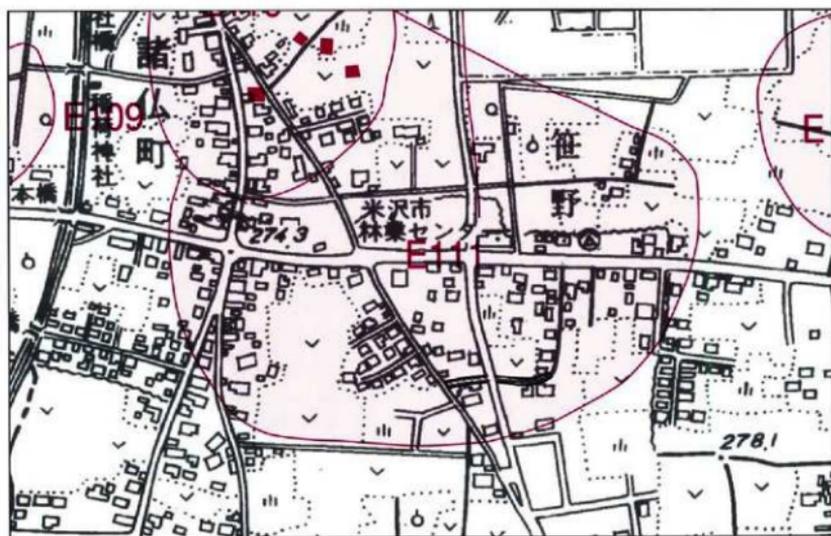
第18図 米沢城跡位置図



第19図 下花沢A遺跡位置図



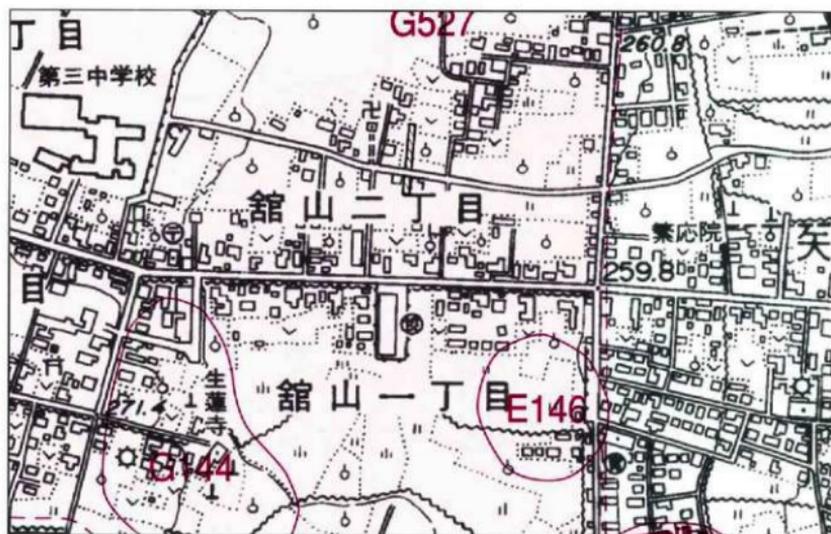
第20図 花沢A遺跡位置図



第21図 大塚A遺跡位置図



第22図 花沢b遺跡位置図



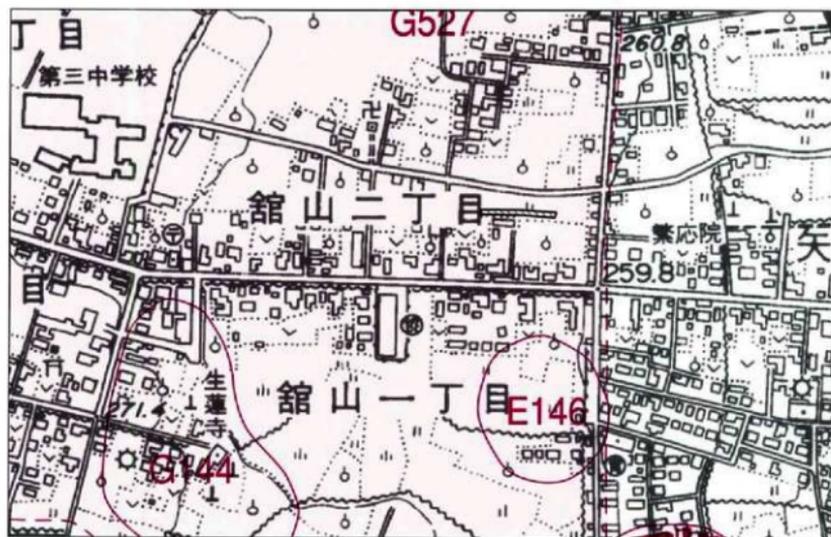
第23図 館山平城跡位置図



第24図 館山平城跡位置図



第25図 下花沢b遺跡位置図



第26図 館山平城跡位置図

18 米沢城 ～ 26 館山平城

公共事業に係る試掘調査及び立会調査として実施したもので、下水道関係及び側溝設置の調査が下花沢A・花沢A・館山平城・下花沢b等の6件。市道関係の調査が大壇A・花沢Aの2件。米沢城本丸の南側と西側の石垣積替に係る調査として1件の9件を実施した。下水道・側溝に係る調査は、工事幅が1m前後と狭いことから工事着手の段階で立会い調査を行った。いずれの箇所からも遺構・遺物は認められないことから慎重工事で進めるように指示した。市道拡幅に関しては、既存の舗装を除去する際に立会いを行い、下部に遺構・遺物の存在を確認したが、遺構等は検出されず慎重工事を指示した。

米沢城の石垣積替工事に関しては、既存石垣の一部が崩壊したことによる積替補強工事であり、危険箇所の7ブロックに対して立会調査を実施した。工事は、あくまでも積替補強工事であることから、直接遺跡に影響しないと判断し、慎重工事で進めるように最初の立会調査の段階で指示した。



第27図 大西遺跡調査区位置図

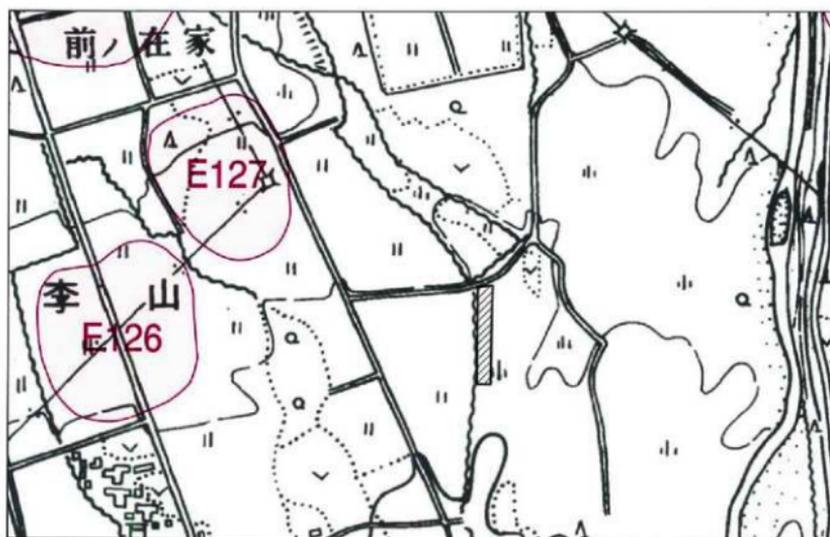
27 大西遺跡

当遺跡は前述のように、宅地造成に伴う試掘調査により発掘調査に至った新規の遺跡で、古墳・平安・中世の複合遺跡である。以下、試掘調査の概要と経過について述べる。

当該地は、窪田町小瀬大西に所在することから、「大西遺跡」と呼称した。開発予定地は、沖積性の自然堤防上に立地した微高地で、現況は水田・畑地・原野外になっている。

試掘調査は開発予定地、約14,092㎡の範囲に11本のトレンチ（幅2m、長さ50m外10本）を設定し実施した。その結果、開発予定地の東側を中心とする5本のトレンチ、黄褐色シルトの地山層に遺構・遺物が検出した。特に遺構が集中して検出された、開発予定地の東側部分にあたる約2,500㎡について、発掘調査が必要であることを開発者に報告した。

参考までに検出された古墳時代の遺構には、調査区中央部東側に、長短径4～8m、溝幅1m前後、深さ約50cmの方形・円形周溝墓・箱式石棺が計5基確認された。1・2・4号墓からは、副葬品の壺・白玉・ガラス玉や土師器等が出土している。奈良、平安時代の遺構は、氾濫層を除去した面から柱穴・土塋・祭祀遺構及び東側と西側には南北方向に走る河川跡が確認された。土師器・須恵器・赤焼き土器等が出土している。中世の遺構としては、南東側には東西に走る、幅約1.5m、深さ約1mの中世と推定される箱堀形態の堀跡が確認された。堀跡は、西側で若干曲がり途切れることから中世期の虎口と判断され、また、堀跡から中世期の遺跡範囲は、南東側に遺存するものと推測される。報告書は今年度刊行する予定である。



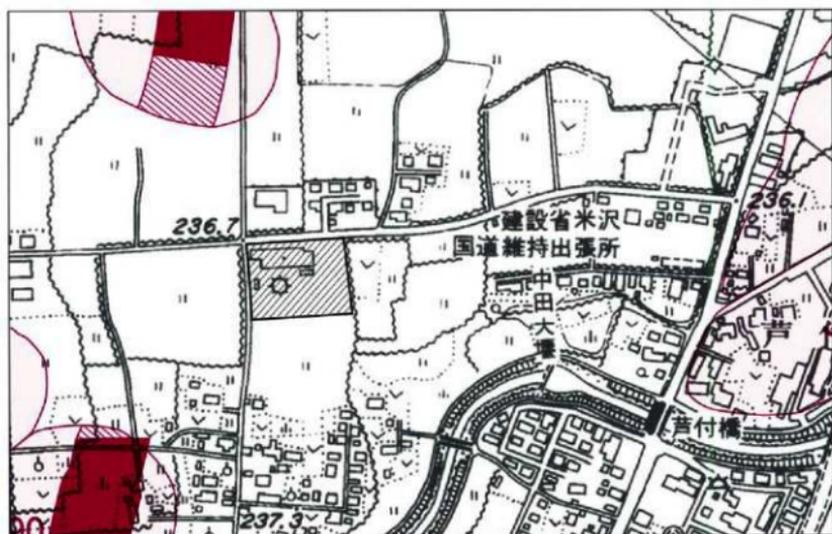
第28図 李山調査区位置図



第29図 花沢町調査区位置図



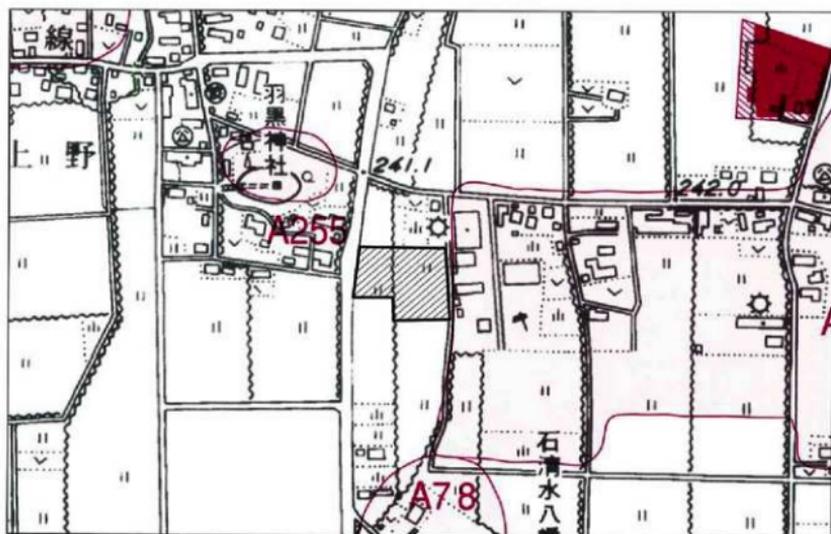
第30図 徳町調査区位置図



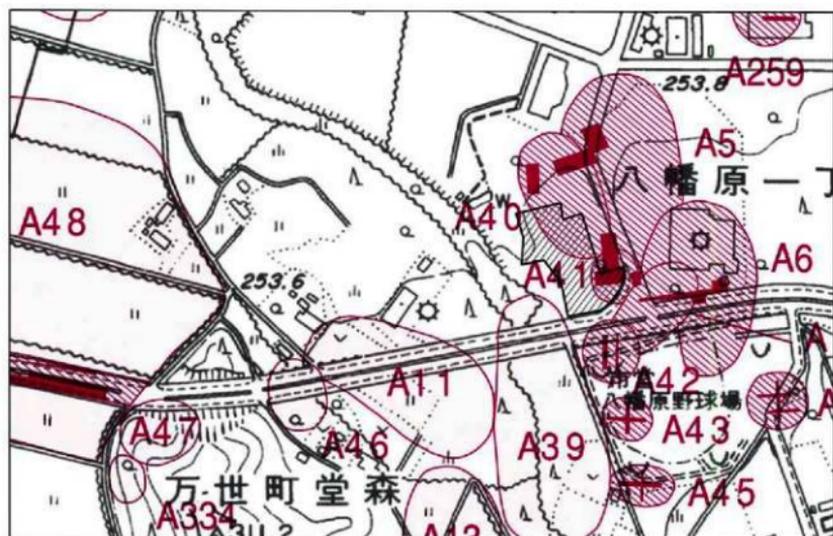
第31図 塩井町調査区位置図



第32図 塩井町調査区位置図



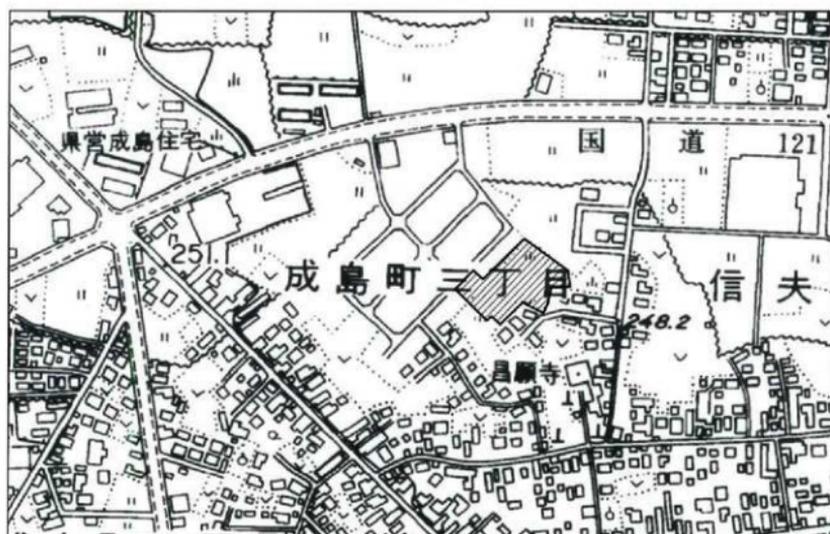
第33図 川井調査区位置図



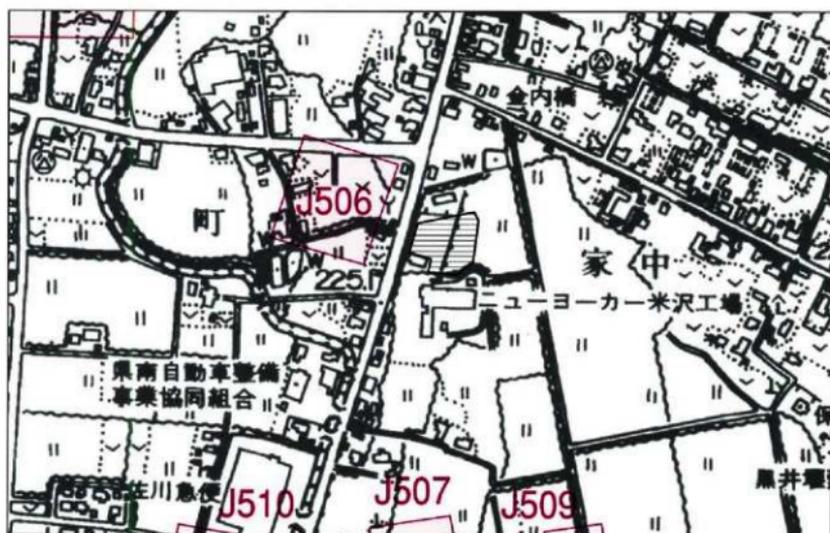
第34図 八幡原調査区位置図



第35図 中田町調査区位置図



第36図 成島町調査区位置図



第37図 窪田町調査区位置図



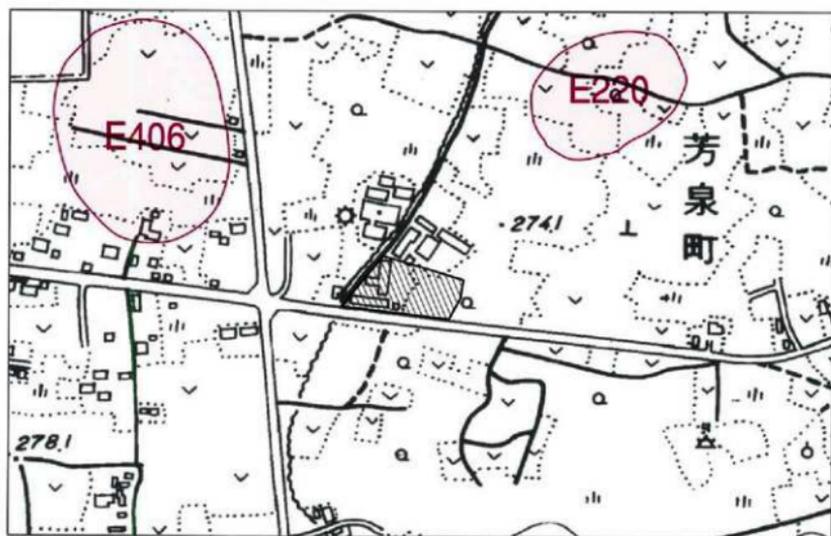
第38図 三沢字白旗調査区位置図



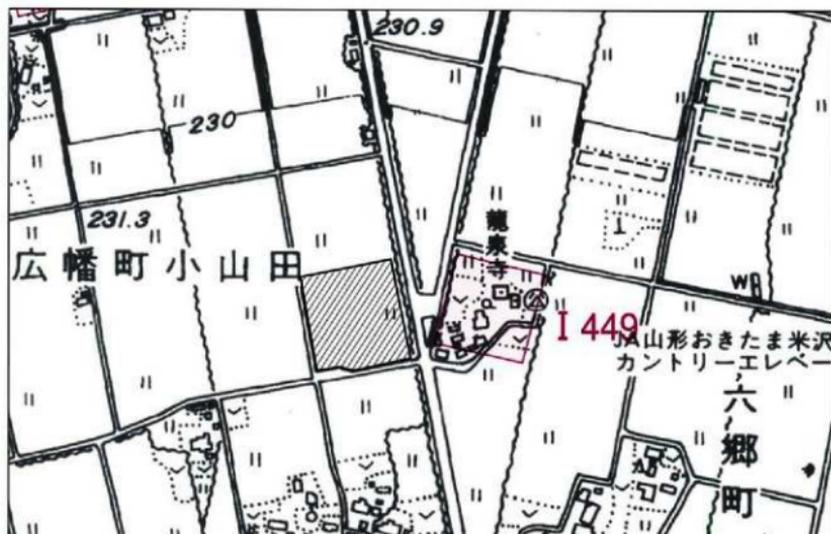
第39図 徳町調査区位置図



第40図 金池調査区位置図



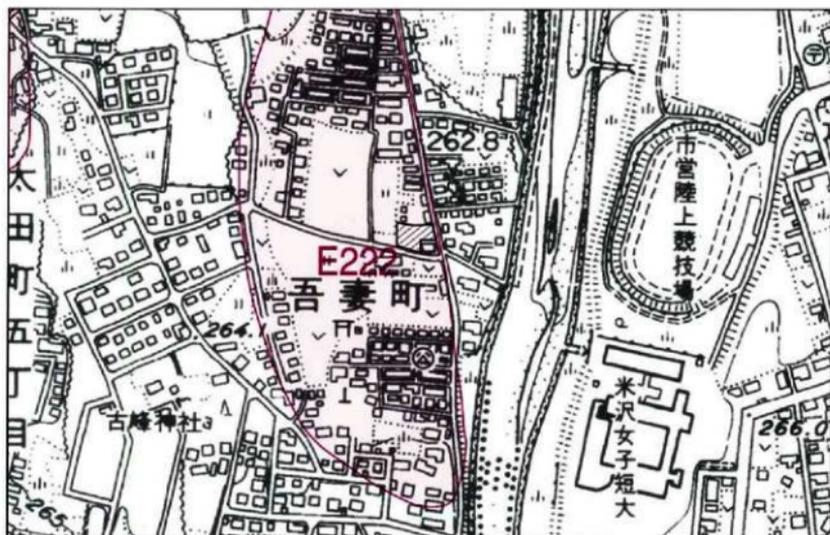
第41図 芳泉町調査区位置図



第42図 六郷町調査区位置図



第43図 福田町調査区位置図



第44図 台ノ上遺跡調査区位置図

44 台ノ上遺跡

本遺跡は、市街地南2kmに位置し、標高263mに所在する。東西約200m×南北600mの約120,000㎡の宅地及び水田の広範囲に分布する。開発面積は875㎡あり、この中央部に幅2m、長さ35mのトレンチ（70㎡）1本を設定して、5月21日～23日までの3日間調査を実施した。

当該地付近は、平成元年度の市道拡張工事に伴う第1次調査を始めとして、これまでに第11次にあぶ調査を実施し、縄文時代前期末葉から中期中葉の大集落であったことが次第に明らかになってきた。開発予定地は、平成15年度調査区の東側に隣接する場所にあたる。

調査の結果、トレンチの全域から遺構・遺物が検出された。基本層序は、盛土、耕作土、包含層、シルト層が認められ、盛土は西側が最深で170cm、東側方向に向かって緩やかに浅くなり、東端で70cmであった。平均すると1.1mの盛土状況である。

盛土の下面は耕作土で占められ、黒褐色微砂質土であり、盛土が混入しておらず、遺構確認面となると黄褐色シルト層は極めて良好である。包含層も西側が深く60cm、東側は極端に浅く20cmであり、上面から下面の全ての範囲に遺構が認められた。

遺物は、縄文時代前期末葉から中期中葉（大木7b式併行から大木8a、8b式併行）の土器群で占められる。遺構は堅穴住居跡と推測される土色変化の箇所があり、集落跡の可能性が高いと判断される。従って、開発予定地の875㎡に対し記録保存が必要であることを開発者に報告した。

第Ⅱ節 大浦B遺跡第X次調査

1 遺跡の概要（第45図）

米沢市は、山形県の最南端に位置し、本県を縦断して日本海に流れ込む、最上川の源流流域のひとつである吾妻山系を始めとして、四方を山々に囲まれた、陥落盆地の南東地域を占める。

遺跡は、米沢市役所の北東部約2kmの中田地区にあり、遺跡の南西を堀立川、南東には最上川（松川）、東方を羽黒川が流れ、堀立川と最上川は遺跡の南東部で合流する。さらに約600m東方では、羽黒川が合流し最上川となる。遺跡は、標高236.3mの微高地を中心に分布し、北方にも西から東に流れる小河川が2本ある。地元では、「上堀」、「下堀」と呼び、現在も水路として、使用されている。この小河川によって、小規模ながらも河岸段丘を形成しており、縄文時代にはすでに小河川が存在したと考えられる。この様に、大小の河川に囲まれた環境で、東南を北流する河川との高低差は7.5mあり、1段目の河岸段丘は大半が水田として利用され、土質は微砂質土である。

大浦遺跡群は、A～D遺跡の4箇所に分けて登録している。遺跡の中央には、東西に延びる県道、米沢、浅川線があり、この道路の南側を大浦A遺跡、東方を大浦C遺跡、西方部を大浦B遺跡、そして前に述べた小河川を境とした北方を大浦D遺跡と呼んでいる。これらの遺跡群の中で、大浦D遺跡は中世期が中心である。他は、奈良、平安が中心であることから、大浦A、B、Cの3遺跡が郡衙推定範囲として捉えている。

今回、調査を実施した地点は、これまでの調査箇所の中で、最も北西部に位置している。

2 調査に至る経過と調査の経過（第46図）

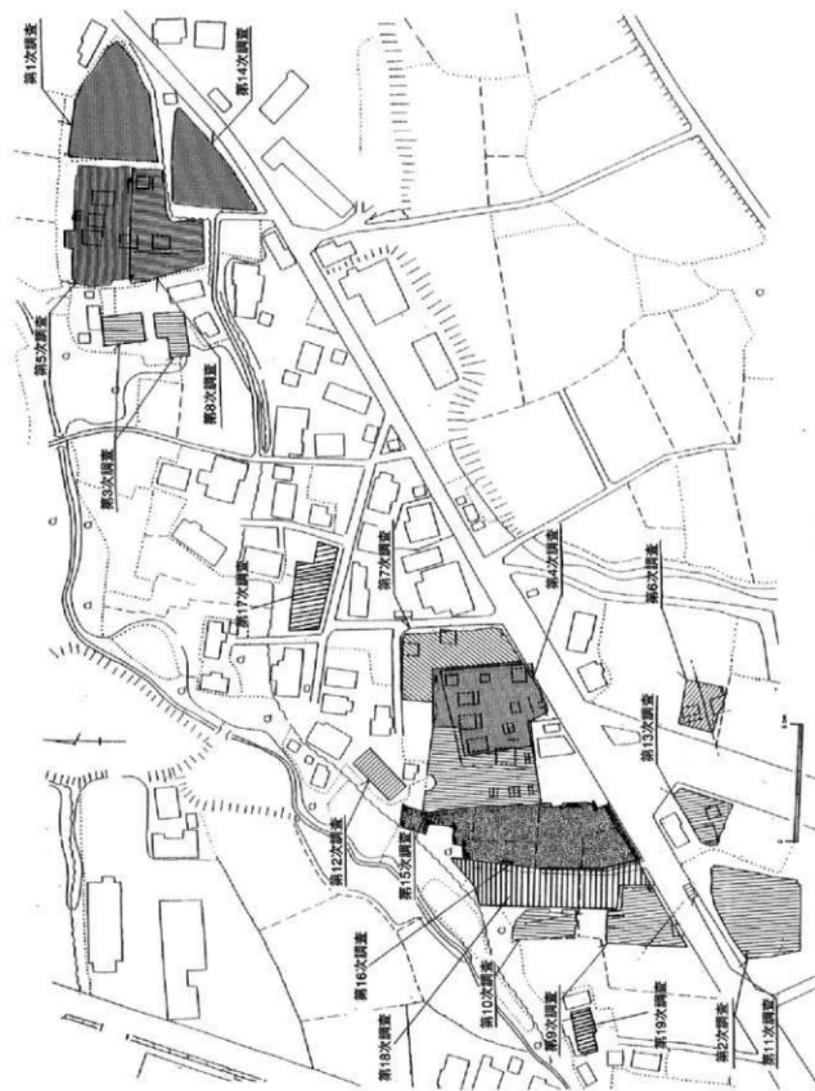
遺跡が最初に発見されたのは、1984年（昭和59）6月である。第46図で示す様に東端部に位置する。当時、駐車場の造成工事が行われ、表土が削平された面から遺物が出土した。遺物は奈良時代や平安時代であり、溝状遺構に伴うものであった。工事を実施した地主の遠藤庄四郎氏と協議し、昭和59年6月15日～同年7月2日の期間で発掘調査を実施し、奈良時代の溝状遺構4基を確認した。覆土からは、布目瓦を始めとして多数の遺物が出土した。この箇所が、第1次調査区であり、現在（平成15年度）までに大浦遺跡群の調査は、第19次をかぞえる。

今回の調査は、個人の住宅建替えに伴うものであり、3月28日に試掘を実施している。試掘は既存の住宅を解体した後に行い、遺構としてはピット群、遺物としては須恵器片を確認した。昨年度の遺跡詳細分布調査報告書第16集は平成15年3月20日現在の試掘状況を記載しており、第16集に記載できなかったことを報告しておきたい。

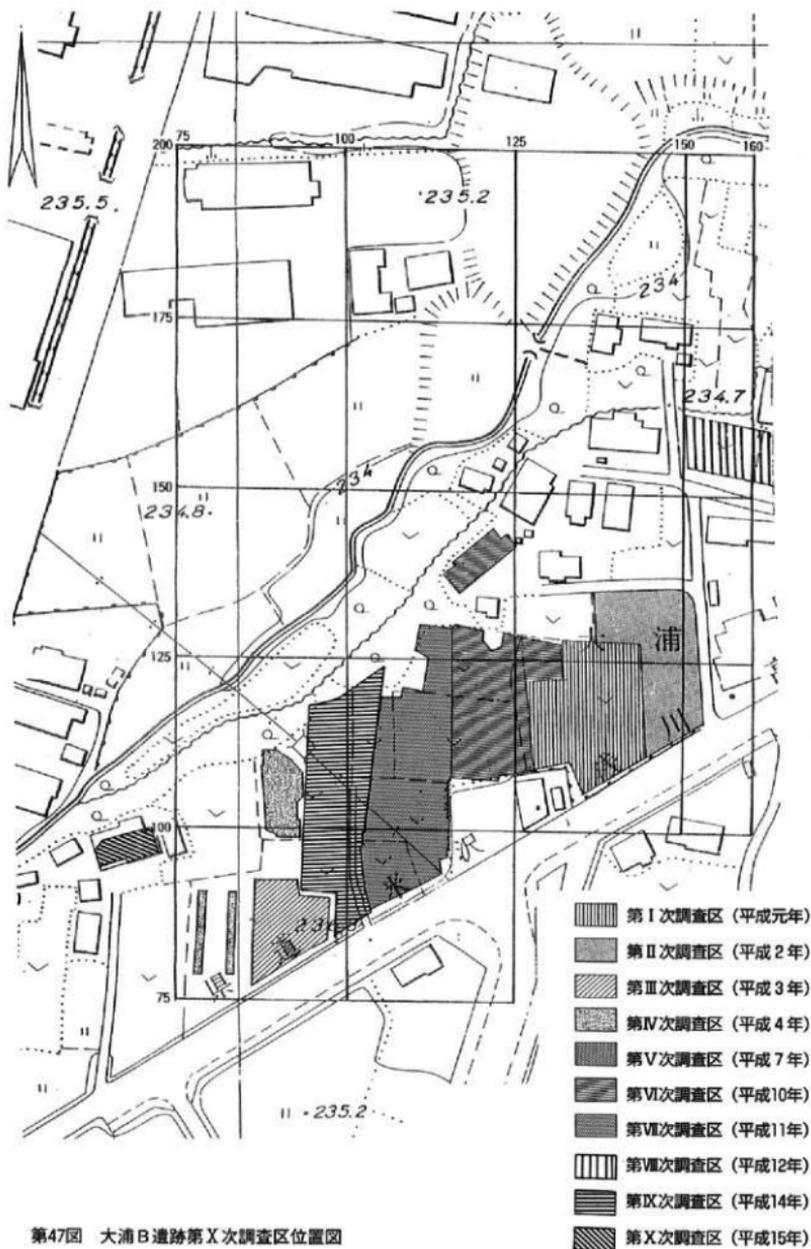
試掘結果から、発掘調査を実施することになり、建主との協議の結果、平成15年4月21日から開始することになった。建主のご好意で、調査区の隣にある小屋を休憩所として使用させて頂き、さらに土砂の置き場として畑を提供していただいた。解体した住宅は、昭和の初期に建てられたもので、それ以前は、原野だったことを聞いていると、建主が話してくれた。地下に埋設された施設によって、攪乱された箇所以外は、良好な確認面であった。調査は、同年の4月



第45図 大浦B遺跡位置図



第46図 大浦通跡群調査箇所位置図



第47図 大浦B遺跡第Ⅹ次調査区位置図

30日で終了し、調査期間の延べ日数は10日間、調査面積は165㎡（50坪）であった。

3 検出遺構（第47図）

今回の調査区からは、ピット25基、溝状遺構5基を検出した。覆土や遺物の吟味から、奈良、平安時代に併行する遺構群は検出されなかった。検出した遺構群は、近世に位置づけられる。ピット、溝状遺構の順で説明を加えたい。

① ピット群（第48図P1～P25）

第48図のセクション図で示すように、小規模で浅いピット群が大半を占める。最深のピットは調査区東南に位置するP2のみであり、直径70cm、深さ38cmを測る。周辺にこのピットと関連するピットは認められず、柱穴とは考えられない。一方小ピット群も浅い形状であり、掘立柱建物跡を構成する柱穴とは言えないが、解体された住宅は川原石を礎石とした建物であり、少なくともこれらのピット群は、住宅が建築される以前の年代が推測される。

② 溝状遺構（第48図KY1～KY5）

調査区の西方に位置するKY1は長さ2.2m、幅90cmを測り、深さは20cmと比較的浅い形態を有する。底面は平坦で、覆土からの遺物は認められなかった。東方のKY2は、南北に延び、西方に直角に曲がり、極端に浅い形態である。底面は、断面形態がレンズ状を呈す、浅い形態の小ピットが14基検出された。直角に曲がることから、人為的なものと判断される。小礫を覆土を含むP25と重複するKY3は、調査区の南西部に位置する。幅30～70cmの浅い溝状遺構であり、北西及び南西に延びる形態を呈しており、排水路と推定される。KY4・5は幅の狭い形態で南北及び東西に延びる。KY2と同様な形態である。

4 出土遺物（第49図）

今回の調査区からは、総数26点の遺物が出土しており、内訳は次のとおりである。剥片1点、須恵器片7点、土師器片11点、陶磁器7点であった。すべて小破片で占められ、図示できたのは5点である。これらの遺物群は、表土及び遺構確認面からの検出であり、遺構に伴う遺物は認められなかった。図示した遺物を中心に説明を加えたい。

・須恵器坏（第49図1）

3点の破片が出土している。底部から斜めに立ち上がるのを特徴とする器形で、大浦遺跡のⅡ期に位置すると考えられる須恵器坏である。

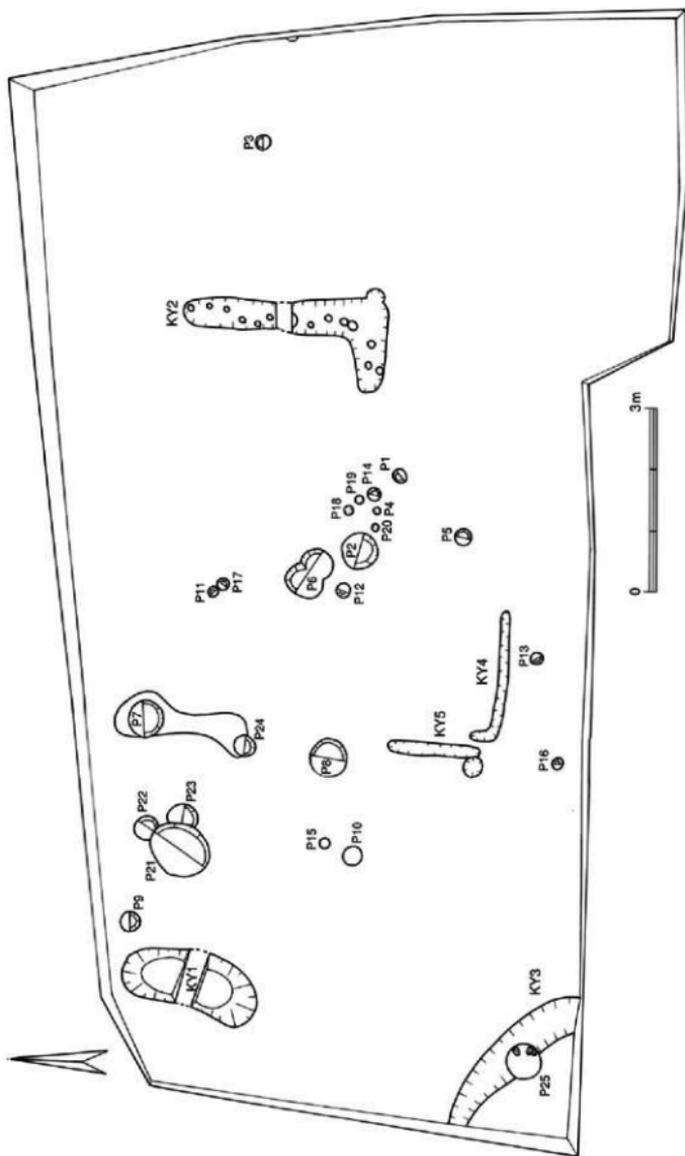
・須恵器蓋（第49図2）

肩が張るタイプの形態と推測され、大浦遺跡群のⅢ期に多く認められる。須恵器蓋はこの図示した1点のみであった。

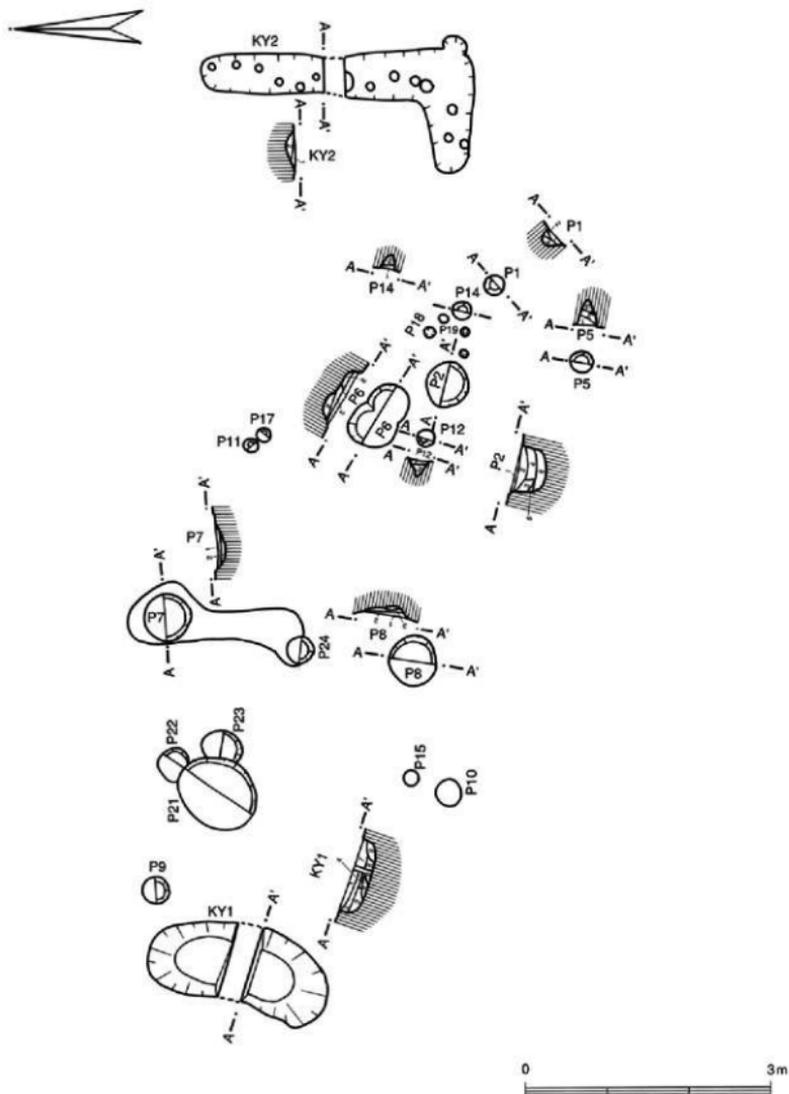
・須恵器甕片（第49図3～5）

3は底部、5は底部に近い胴下半部、4は口縁部に近い破片である。3は表面の調整法からすれば、壺形の器形も考えられる。大浦遺跡のⅡ～Ⅲに位置すると考えられる。

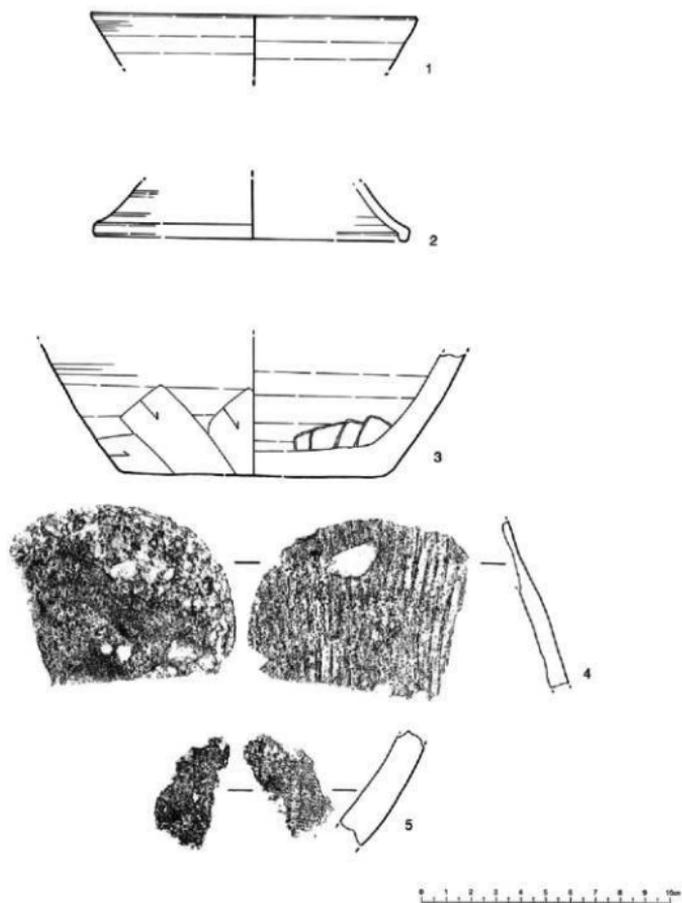
剥片は硬質頁岩を素材とした、チップで二次調整は認められなかった。石器を再調整した際



第48図 大浦B遺跡第Ⅰ次調査遺構全体図



第49図 大浦B遺跡第X次調査遺構平面図



第50図 大浦B遺跡第X次調査出土遺物実測図

に生じる剥片形態である。陶磁器片は染付け碗、なまこ釉を施した鉢、播鉢等の破片であり、近世陶磁器群である。

5 まとめ

今回の調査は、大浦遺跡群としては第19次、大浦B遺跡では第X次の発掘調査である。調査区からは、奈良、平安時代の遺物は出土したが、遺構は近世を中心とするものであった。この結果からすれば、今回の調査箇所が大浦B遺跡の北西範囲境部と理解される。地形的にも今回の調査区の北部には、隣接するように小河川が西から東に流れており、この小河川が大浦B遺跡の北方境界線であることが明確になった。大浦B遺跡は、遺跡群の中で最も小高い所に位置し、この箇所に柵列施設があり、建物群はこの施設に囲まれた範囲を中心として広範囲に分布している。柱の掘り方や建物群の規模から想定すれば、大浦B遺跡群の建物群は、大浦遺跡の中核建物群と考えられる。今回の調査区には、この時期の遺物が出土していることから遺跡の範囲であったことが伺える。遺跡の範囲であるが、建物群が存在しなかった箇所は、これまでの調査区でも確認されており、これらの箇所は、広場として利用されていたと考えられる。近世の遺構は、ピット群を中心として検出したが、掘立柱建物跡を構成するまでには至らなかった。近世において集落が存在したのは、遺物から推測されるが建物群を構成するまでには至らなかった。

遺物としては、奈良、平安期の須恵器、土師器片、陶磁器片が検出した。須恵器片は坏、壺、甕の器形が認められた。土師器は摩滅が著しく、器形は判断できなかった。陶磁器の中には、伊万里の染付碗、鉛釉を施した飯坂岸線の鉢の底部が出土しており、概ね17世紀以降の所産と考えられる。遺物から判断すれば、調査区周辺には17世紀以降に集落があったことが想定される。

最後になりましたが、今回の調査にあたりご協力いただきました、土地所有者の加藤精一氏に心から感謝申し上げます。

参考文献

- 手塚 孝 他 1981 [笹原] 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第7集 米沢市都市計画課
まんざり会・米沢市教育委員会発行
- 手塚 孝・菊地政信 1987 [大浦A・大浦C] 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第18集 米沢市教育委員会
- 菊地政信 他 1991 [大浦B] 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第29集 米沢市教育委員会
- 手塚 孝・山田 隆 1992 [大浦C] 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第33集 米沢市教育委員会
- 手塚 孝・菊地政信 1993 [大浦B] 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第36集 米沢市教育委員会
- 月山隆弘 1998 [大浦A] 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第59集 米沢市教育委員会
- 菊地政信 2000 [大浦B] 米沢市埋蔵文化財調査報告書 第67集 米沢市教育委員会

第Ⅲ節 京塚古墳群の調査

1 調査の目的

京塚古墳群が所在する広幡町地区は、米沢市の北西部に位置する。古墳群は、広幡町上小菅地区南方の神明山丘陵及び北方の平坦地に分布している。古墳が、所在する丘陵に沿って国道287号が南北に走る。

本古墳群は、昨年（平成15年）確認された古墳群であり、米沢市埋蔵文化財報告書第80集にその概要を述べている。それには、1号墳から9号墳までの9基を確認したと述べたが、さらに今年度、平地に1基確認し合計10基となった。

これらの古墳群は、1基の前方後円墳と9基の円墳から構成され、平地に4基、丘陵に6基を構成している。調査は、丘陵の6基を対象として、分布図の作成、前方後円墳の測量調査、最後に「経塚」と呼ばれていた塚群が、古墳であるのかの試掘確認調査の順で実施した。

2 調査の経過（第52図）

調査は平成10年10月21日から同年11月26日の期間で実施した。古墳群が所在する一帯は松食い虫の影響を受けて、多くの松木が切り倒され、見通しが極めて好い景観であった。また、晩秋であり、立ち木の広葉樹は落ち葉の季節を向かえていた。

このような状況の中で、トラバース基点の設定から着手した。標高は本古墳群の南方に所在する成島古墳群1号墳にベンチマークを設定しており、その杭から標高を移動しながら京塚古墳群の4号墳にトラバース基点「T1」を打ち、本古墳群を対象としたトラバース基点はT1～T32の32箇所に配した。その際には立ち木はなるべく伐採しないようにし、立ち木が妨げになる場合は、その都度トラバース基点を移動し伐採は最小限に留め、作業を進めた。この作業に3日間を要した。

次に1号墳から6号墳までの分布図を500分の1で作成した。第53図がその分布図であり4号墳と2号墳がほぼ同一レベルに構築されていることが判明した。分布図作成は5日間を要し、終了した。その後、4号墳の測量調査を実施するにあたり、トラバース基点T1から「十字」型に配した。トラバース基点は全部で14箇所であった。

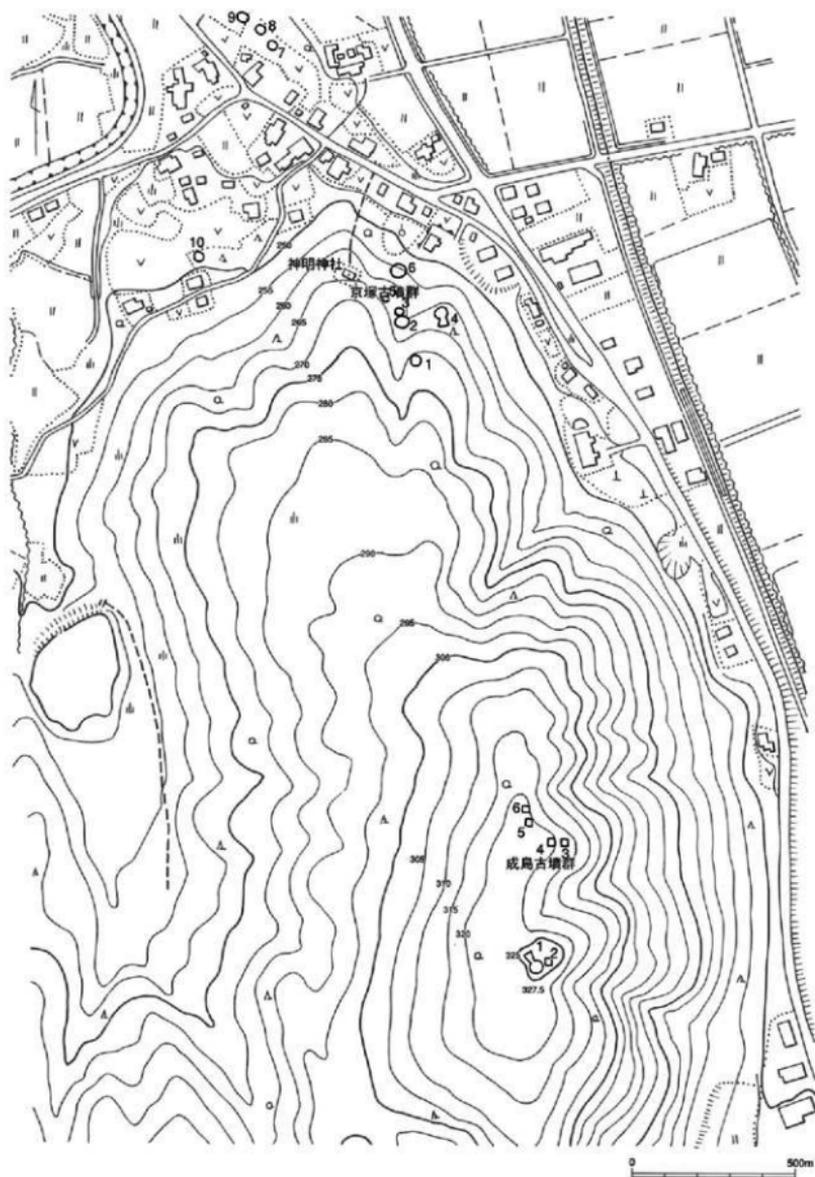
前方後円墳である4号墳の測量調査は分布調査と同様に5日間を要した。標高の計算は間違いを直ぐ発見できる様に、現場で実施した。100分の1で現況測量図を作成し、測点は603点であった。

最後に、6号墳を対象として、試掘調査を実施した。調査は墳丘の測量調査から開始、40分の1で作成した。その後、周溝の確認トレンチ、墳丘の調査、主体部の調査の順で実施した。

調査を実施している期間に地元の住民が来跡し、「お経塚」を調査しているのですか、と質問された。トレンチは、墳丘の中央部に十字型に配し、落ち葉の除去、掘り下げを実施し、墳丘の中央部に墓壇を確認した。その範囲に沿って拡張し、墓壇全体を把握するに至った。墓壇の中央部には主体部を確認し、掘り下げた。調査後は埋め戻し、現況に復した。平成15年11月26日に終了した。



第51図 京塚古墳群位置図



第52図 京塚古墳群・成島古墳群分布図

3 調査の成果

前述したように、今回の調査は、丘陵地の分布図作成、4号墳の測量図作成、6号墳の測量図作成及び確認試掘調査を実施したので、これらの成果について、列挙した順に説明したい。

・分布図作成調査（第52図）

第52図に示したのが、丘陵に構築された6基の古墳群の分布図である。標高272mの最高地に位置する一号墳を始めとして、丘陵の尾根に沿って円墳が5基、沢を隔てて東方に、4号墳の前方後円墳1基が存在する。

古墳が、構築された丘陵から南方に約1.5km昇ると山頂に達する。山頂には1基の前方後円墳と5基の方墳からなる成島古墳群が存在する。この山頂を中心に分布する成島古墳群から北方に延びる突端部を選択して構築したのが、京塚古墳群であり、高低差は55mある。

1号墳は、長径が13m、墳頂径は9mの円墳であり、高さは73cmと低い形態である。周溝は認められなかった。墳頂には、幅2mの浅い窪地が南北に帯状に認められた。この1号墳から北方の5号墳の西側には、成島古墳群が存在する山頂へとつづく山道がある。

2号墳は、1号墳から北方に50m離れて構築されている。高低差は6mであり、緩やかに傾斜を選択している。2号墳の北方には、3号墳が隣接している。2号墳は標高263mの地点であり、幅2mの周溝が全周する。墳丘の高さは1.5mあり、墳頂中心部が窪地になっている。

この窪地は、主体部の木棺が腐食して、陥没した痕跡と考えられる。2号墳は、直径19mを測り、周溝の幅は2m、墳頂径は9mの円墳である。

2号墳の北方に隣接して構築された3号墳は、山寄せ型の円墳で谷側に周溝が廻る長径は8m、墳頂径は5m、高さは1mを測る。現況の踏査では、3号墳構築後に2号墳を構築した印象を受けた。3号墳はやや急斜面を選択しており、北方から見れば実際よりも高く見える景観を有する。1号墳から3号墳までは、ほぼ一直線上に構築している。これらの3基の中軸線から北西に外れた地点に、最も小規模な5号墳がある。長径は5m、墳頂径は3mで3号墳と同様に、山寄せ型の円墳である。高さは95cmと低い形態である。

6号墳は、丘陵の末端部に位置し、長径は19mを測る。3、5号墳と同様に山寄せ型の形態を有し墳頂は、10mある。山側に幅1mの周溝が廻り、谷側には幅2mの周庭が認められる。

4号墳は前方後円墳で、前述した2号墳と沢を挟んで、40m離れた場所に構築され2号墳と後円部が、ほぼ同一標高で261.0mである。

今回の調査で新たに確認した古墳は、第52図に示した10号墳であり、現況は周囲を原野及び林であり墳丘にも立ち木が茂っている。

・京塚古墳群4号墳の測量調査（第54図）

第54図は、今回の調査で作成した4号墳の現況測量図である。丘陵の突端部を選択して構築された前方後円墳で、中軸線を境に東側は金松寺の寺領、西方部が個人所有に分かれている。昨年（平成15年発行）の米沢市埋蔵文化財調査報告書第82集の中で、京塚古墳群4号墳について述べた数字は、略測図からの計測であり、以下に述べる今回の測量図の数字に変更したい。全長は、40.4mから42m、後円部の直径が20.7mから21.7m、前方部の長さ19.7mは変更なし

であった。前方部幅は15mから14.7mとなり、略測図の計測値に近い数字であった。

後円部の高さは3m、前方部は1.5mであり、南に開く前方部から後円部にかけては、緩やかに傾斜し前方部と後円部の高低差は、3mを測る。

周濠は、くびれ部から前方部にかけて、明瞭に認められた。前方部端部周濠がなくなる現況であるが、古墳の中軸線上が、山道になっていることを考慮すると、この箇所は山道によって変容した可能性もある。後円部の周濠も、くびれ部から後円部にかけての半周は、明瞭に認められるが、その箇所以外は、自然と平坦になる。すなわち残り半周は、幅2.5mの周庭が巡る継体である。

周濠の幅は、くびれ部が最大で3m、前方部にゆくに従ってやや狭くなり、前方部端部では最小幅の1mとなる。

くびれ部の西方には、墳丘に通じる平坦地が、認められる。この箇所は、後円部周濠と前方部周濠が隣接し、平坦地は幅2mを測る。

墳丘は、前方部及び後円部ともに無段構築であり、後円部だけは、盛土して構築したと推測される。前方部は、丘陵の尾根を切断して、その後は周囲を削りだして、整形し構築したものと考えられる。

主軸長に対する、後円部と前方部の比率は6:6の割合となり、後円部のくびれ部から直進する前方部が外側に開く形態は所謂「畿内型古墳」の特徴を示すと、昨年(2019年)の報告書で述べている。さらに、現存する米沢市の戸塚山山頂古墳群139号墳のように、加藤氏の提唱する規制を受けた古墳に該当するかは別にしても、意図的に前方部を短縮した可能性は、否定できないとまとめている。

・6号墳の確認調査

①墳丘(第56図)

標高250mから243mの丘陵端部を削平及び、盛土によって構築した墳丘である。第56図が今回の調査で作成した平面図で、原図は縮尺40分の1である。

第57図に示したのが、京塚古墳群6号墳のトレンチ配置図であり、墳丘に対してA～Dのトレンチを配置した。各箇所の試掘結果について述べていく。

Aトレンチ(第59図)

墳丘の西側に配したトレンチであり、幅1m、長さ6.2mの範囲を掘り下げた。第59図で示すように周溝及び、墳丘の盛土状況、さらに墓壇のプランを確認することができた。

周溝は、幅4mを測り、断面形態は「U」字型を呈する形態である。セクション図で示した1～4が後世に自然堆積した土層である。5, 6, 7の層位は盛土の土層であり、暗赤褐色土の粘質土で、腐礫を多量に含む土質である。8は墓壇の土層であり、6層面から掘り込んだ状況を呈している。墳頂は、中央部にゆくに従い緩やかな窪地になっている。西側には立ち木があり、土層が攪乱を受けていることから、墓壇の掘りかたは把握できなかった。

Bトレンチ(第64図)

Aトレンチで確認した周溝に沿って、延長したトレンチである。幅は1.2m、長さ12mの範囲

で実施した。第64図に2箇所のセクション図を示した。周溝は山側だけに認められた。谷側は周庭を構築している。西方の上面から須恵系土器片が1点出土している。

Cトレンチ (第62図)

幅1m、長さ10.6mのトレンチを墳丘の中央部に南北に配した。第62図で示すように人工の急斜面があり、古墳を構築する際に削平した箇所にあたる。1, 2, 3層は上部からの流入した土層である。底面に「S」と表示したのが、長径45cm、厚さ20cmの山石であり、意図的に配置したと推測され、この自然石から盛土が開始されている。4～10の土層はすべて盛土である。

Dトレンチ (第61図)

東側に配したトレンチであり、墳丘を地山まで掘り下げた。第61図に示したのがセクション図であり、1.2mの盛土を確認した。このトレンチの底面にも長径30cm、厚さ10cmの山石を検出している。10層と11層の接点で、墳麓線として捉えられ、土質は硬くしまっていた。

②周溝

各トレンチの結果から周溝は、南方部の山側に半周するように、構築している。幅は、2.2m～1.5mを測る。深さは30～40cmと、比較的浅い形態である。底面から遺物は認められなかった。

上面から出土した2点は、古墳築造年代に関連するものではない。1点は凹石であり、縄文時代の所産と考えられる。もう1点は須恵系土器の坏、底部であり平安時代以降の遺物である。

③墓壇 (第63図)

墳丘の中央部に、盛土の2層面から掘り込んだ墓壇のプランを確認した。この箇所は緩やかな窪地となっており、当初予想したように、墓壇の中心部であると認識した。

プランは東西に長軸を有し、長さ5.83m、幅2.45mを測る。確認面の土色は、墓壇が明赤褐色で、2層面の土色が暗黄褐色であり、両者の色の違いにより、容易に確認することができた。

第63図に示したのが墓壇中央部の断面図であり、階段状に掘り込んでいる。下場での長径は5mで壁は真っ直ぐに立ち上り、深さは1.2mを測る。

1.2mの深さの範囲の内、西側は地山を1m掘り込んでいるが、東方側の大半は盛土を掘り込んでいる。このことは、古墳を構築した地形は西側が高く、東側が低いことを示している。

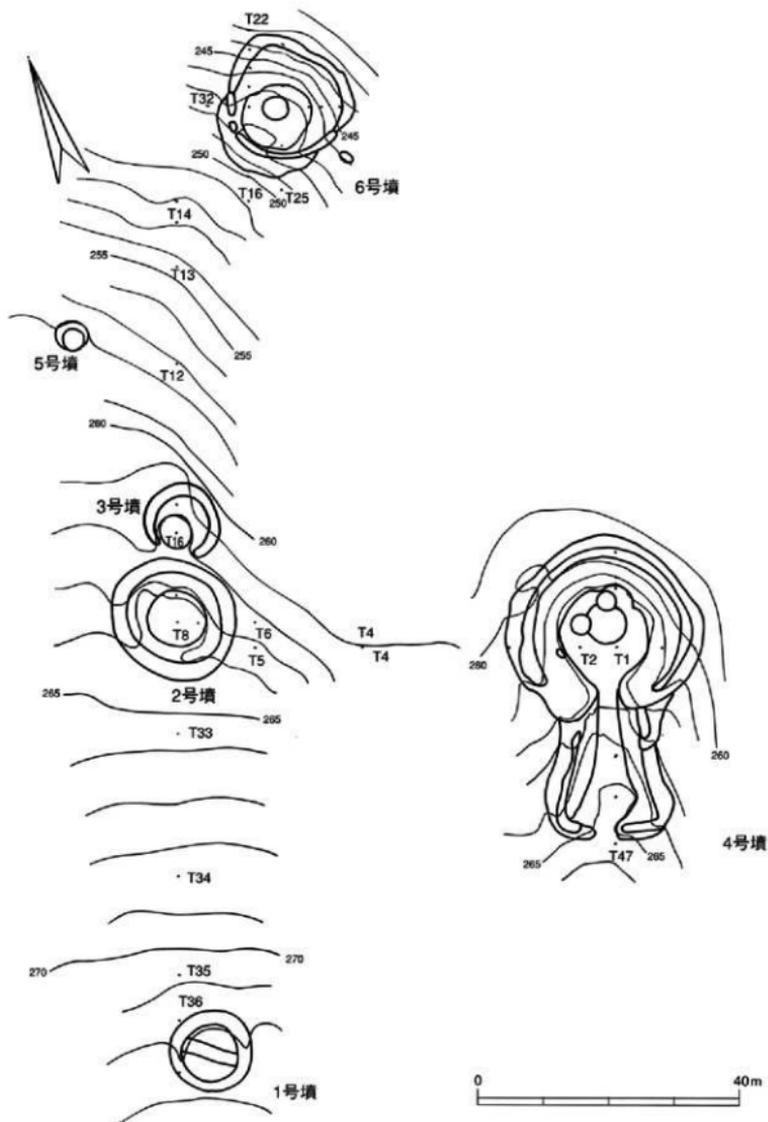
これは、前述したDトレンチで確認した盛土が、墳丘の東側の大半をしめることを示唆している。

④主体部 (第64図)

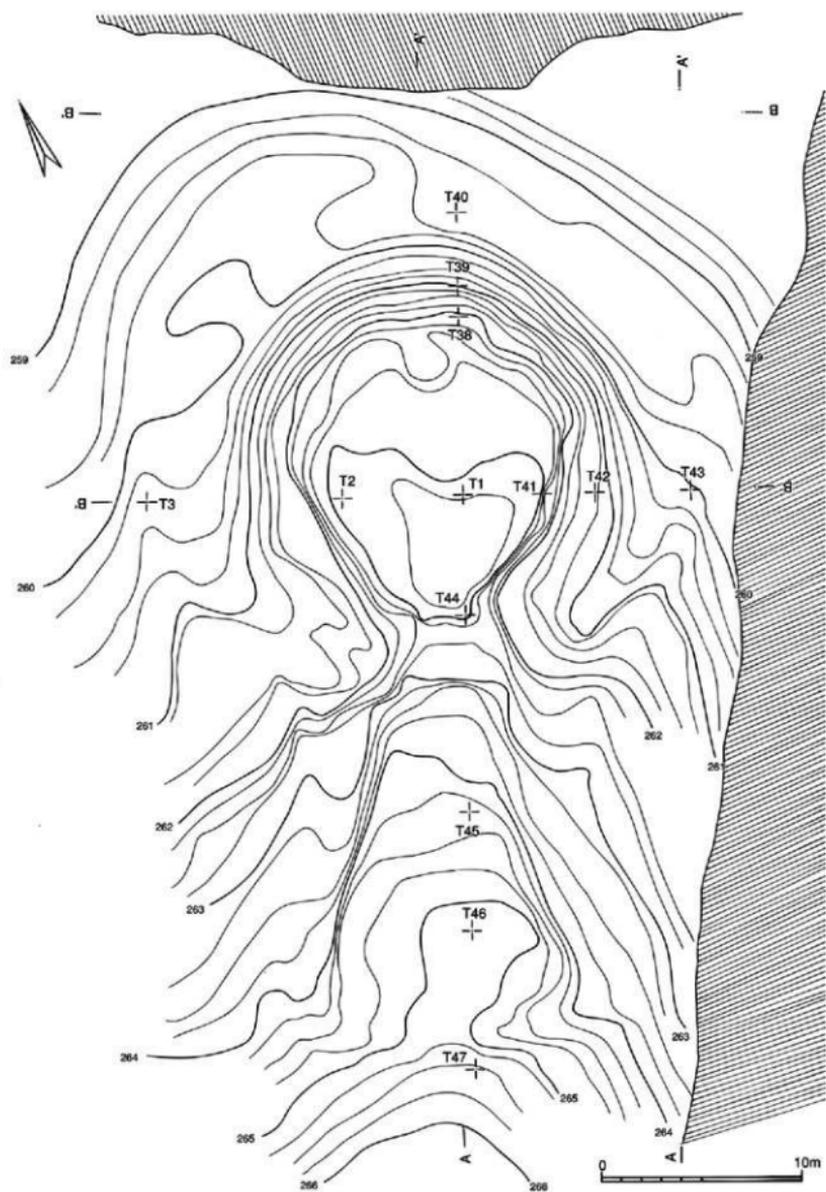
墓壇の中央に長さ5.08m、幅1.35m、深さ1.4mの主体部を確認した。主体部の中央部箇所のセクション図が第64図であり、底面近くの8層は柔らかい土質であった。セクション図や底面の痕跡から木棺直葬の埋葬形態と想定される。木棺の直径は、8層の観察から約75cmの割竹型木棺と推測される。

墳丘から木棺までの埋土は65cmであったことになる。主体部の8層の土砂は全て持ち帰り水洗いしたが、遺物は検出できなかった。

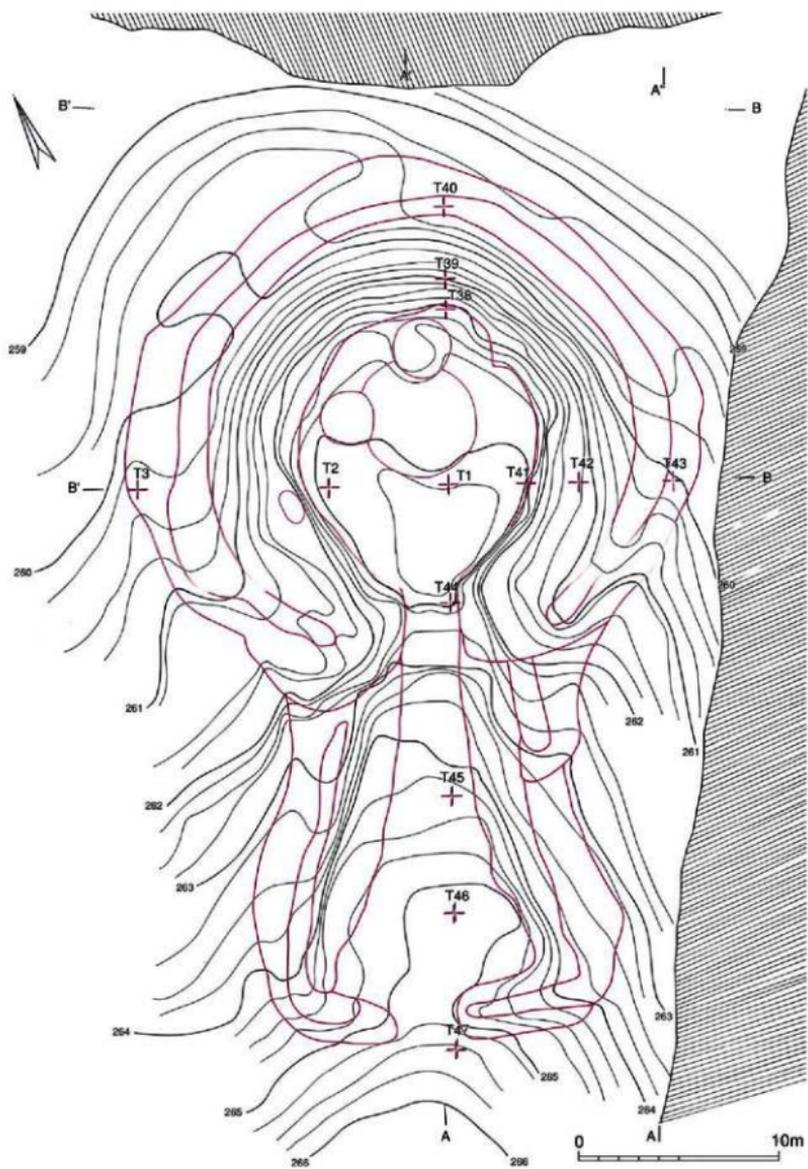
木棺の長さは、4.5mと推測される。主体部の縁辺には、多数の礫群が認められた。特に中央部に集中して認められ、周溝で検出した礫と同様、古墳に関連する礫群と推測される。



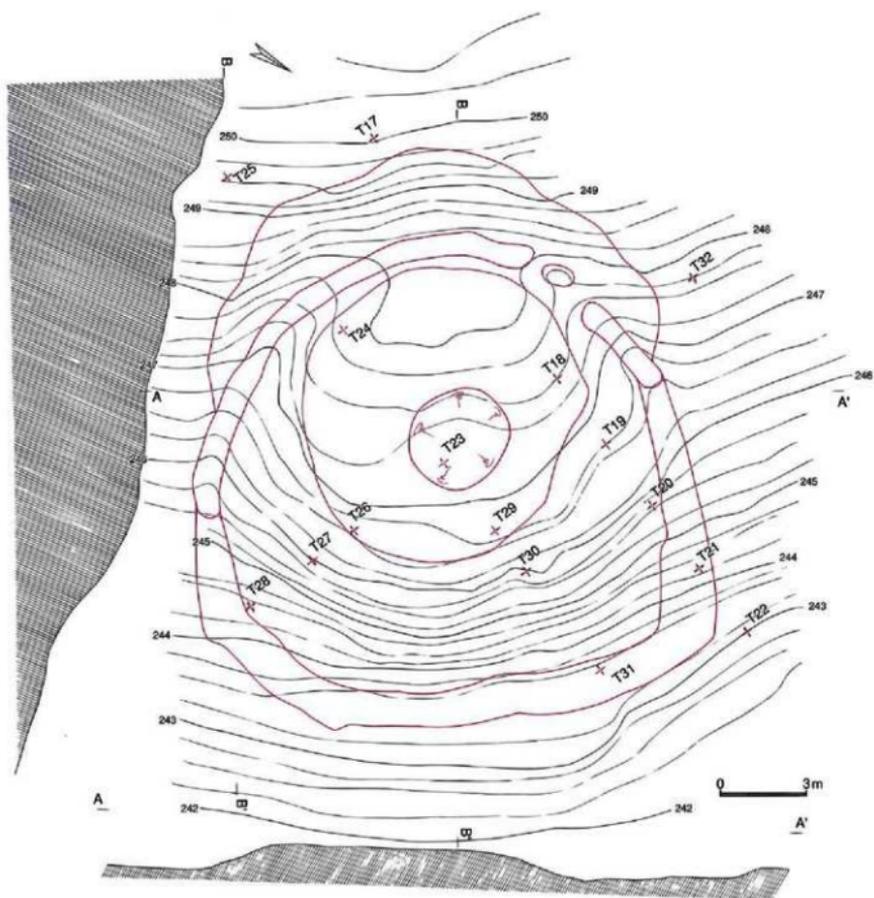
第53図 京塚古墳群測量図



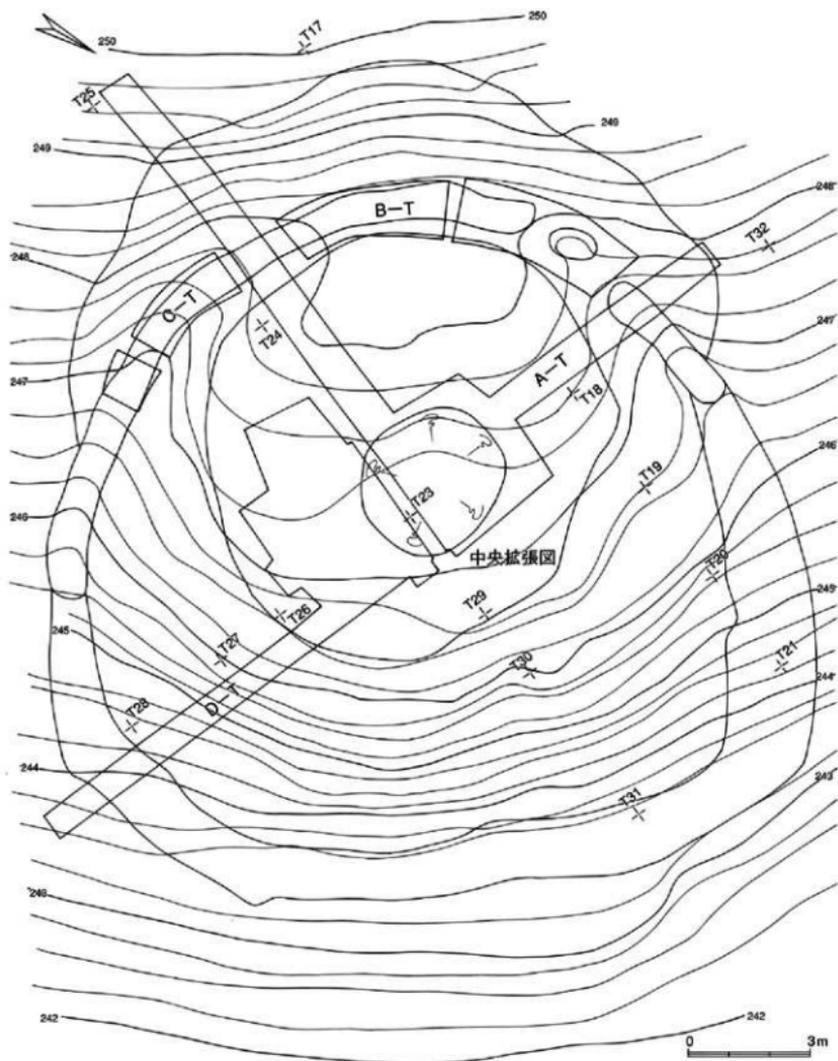
第54图 京塚古墳群4号墳現況測量図



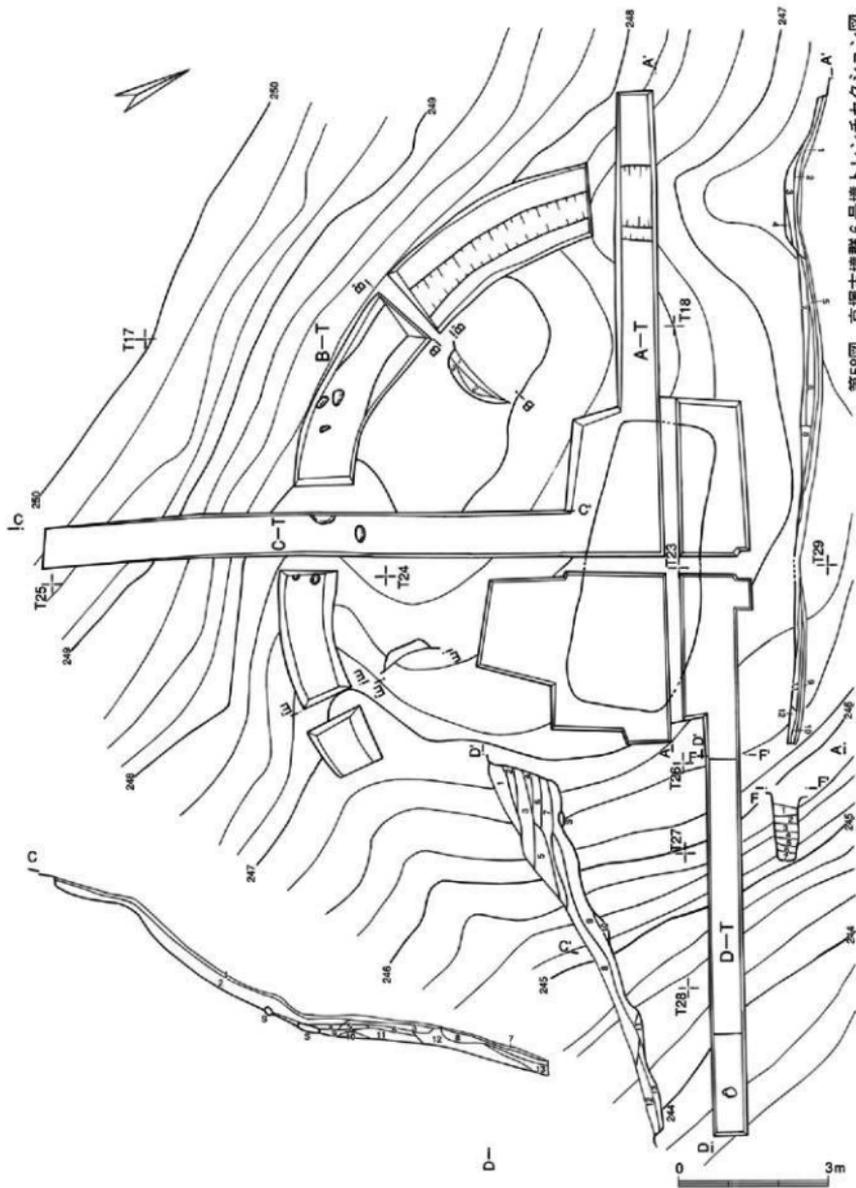
第55图 京塚古墳群4号墳測量図



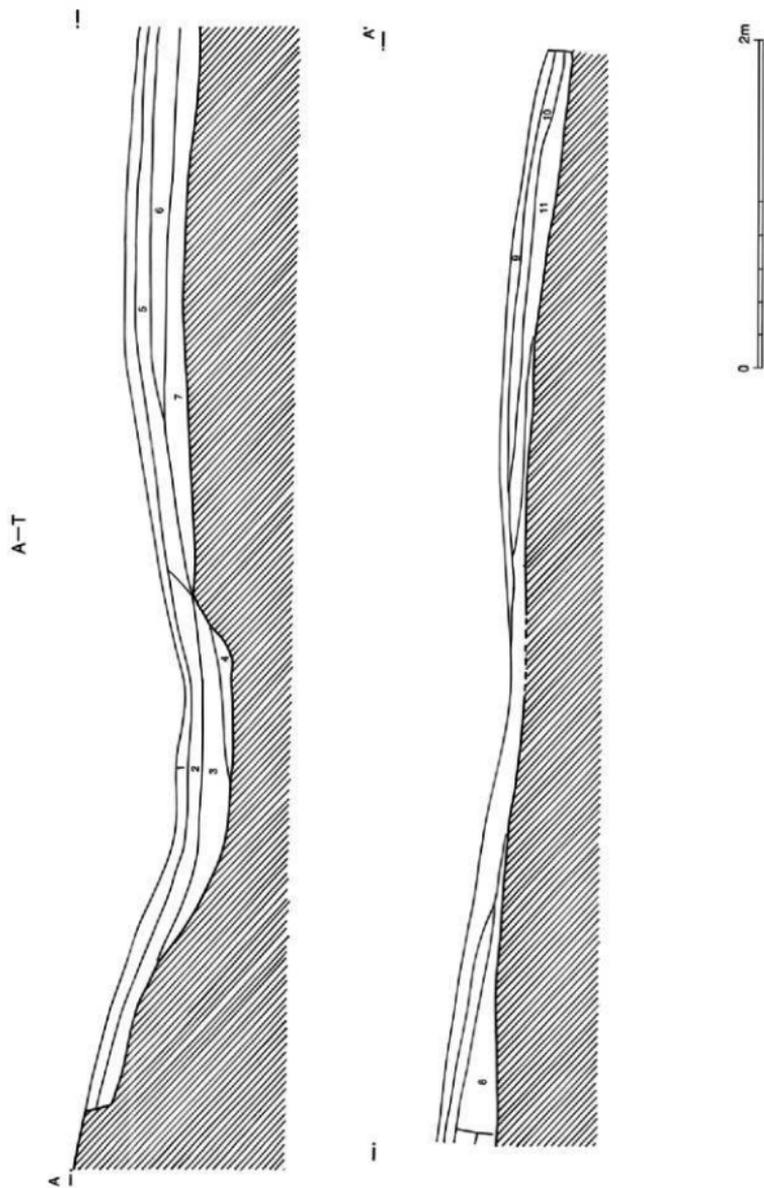
第56图 京塚古墳群6号墳測量図



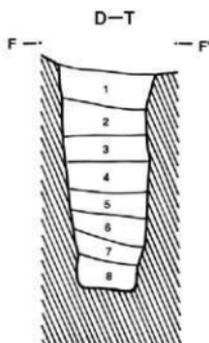
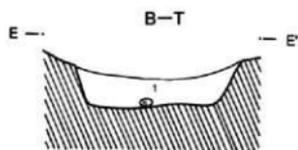
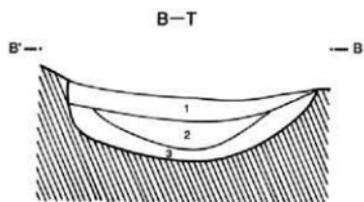
第57図 京塚古墳群6号墳トレンチ配置図



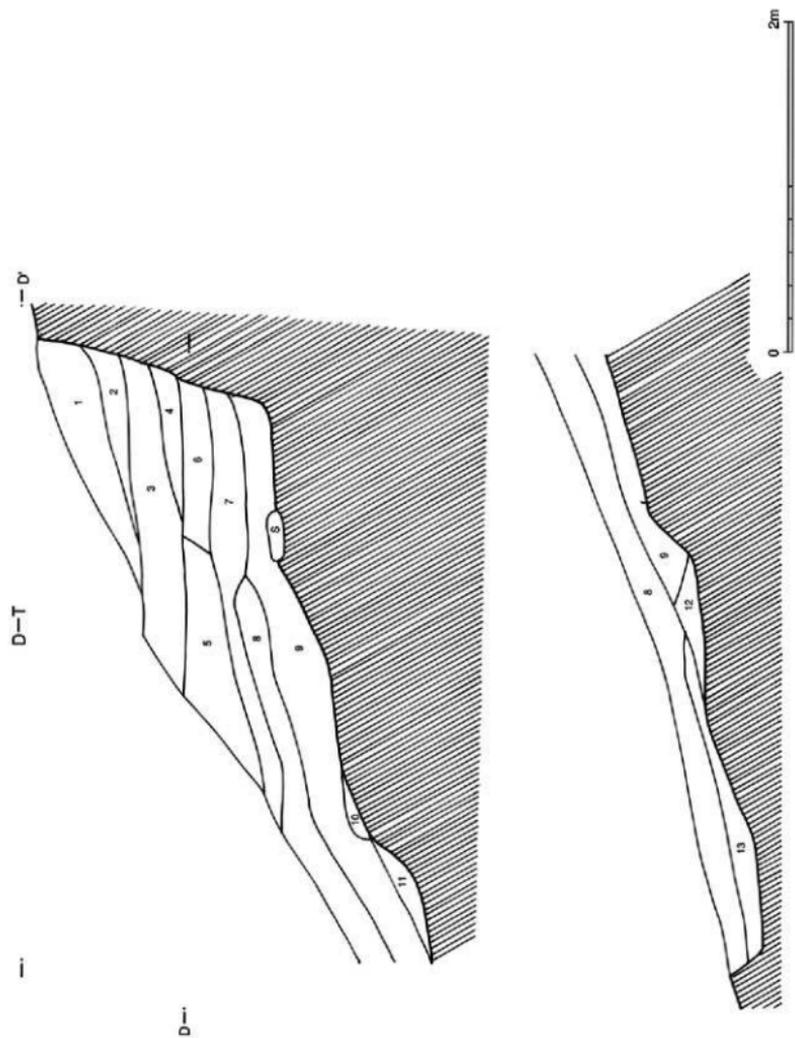
第56図 京塚古墳群6号墳トレンチセクション図



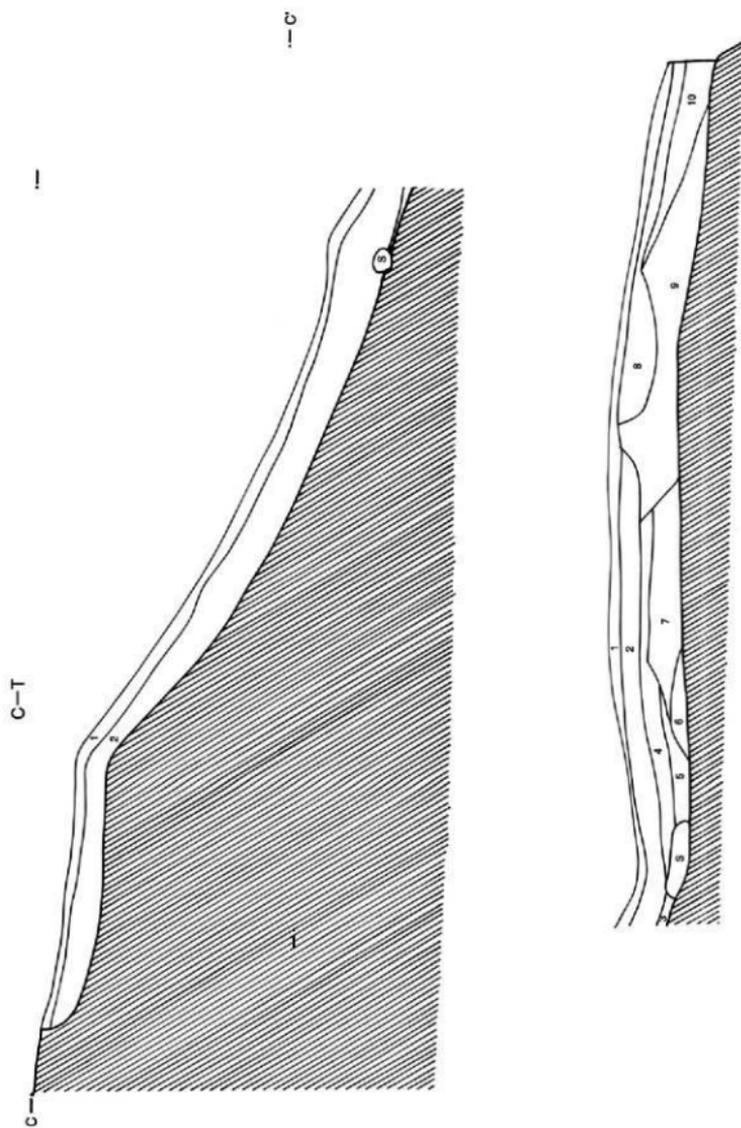
第59図 京塚古墳群6号墳セクション図 (A-T)



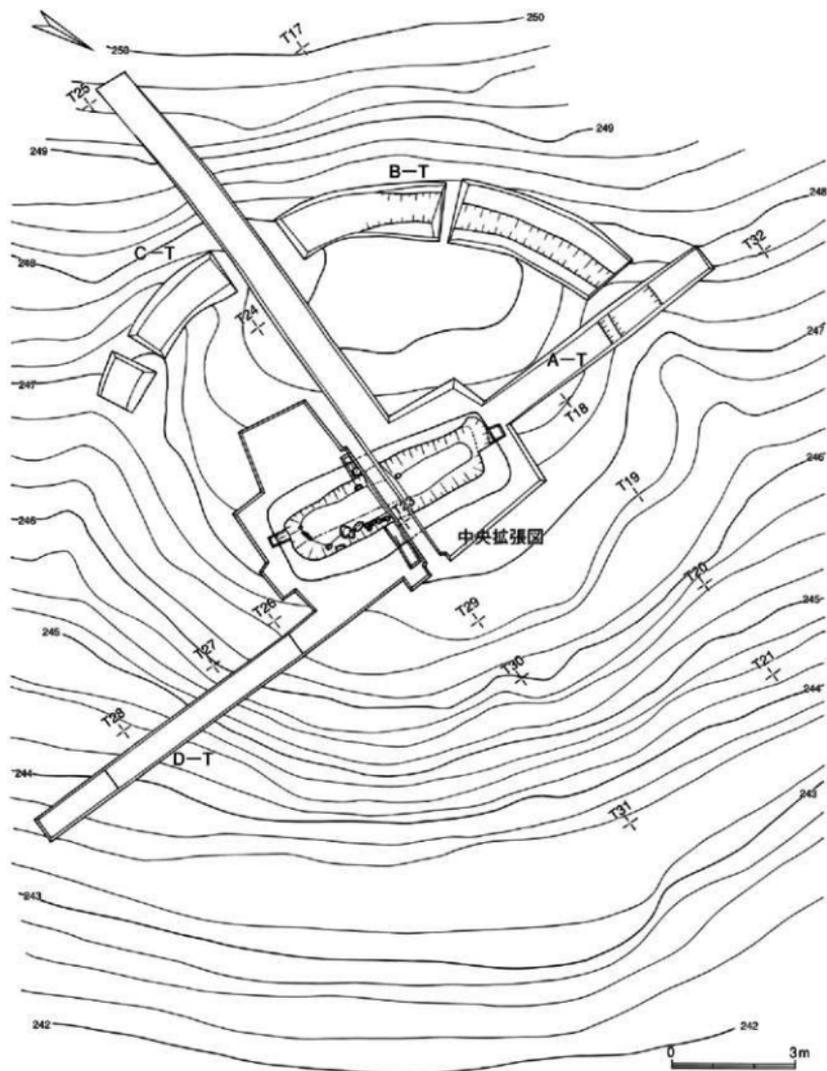
第60図 京塚古墳群6号墳セクション図（B-T・D-T）



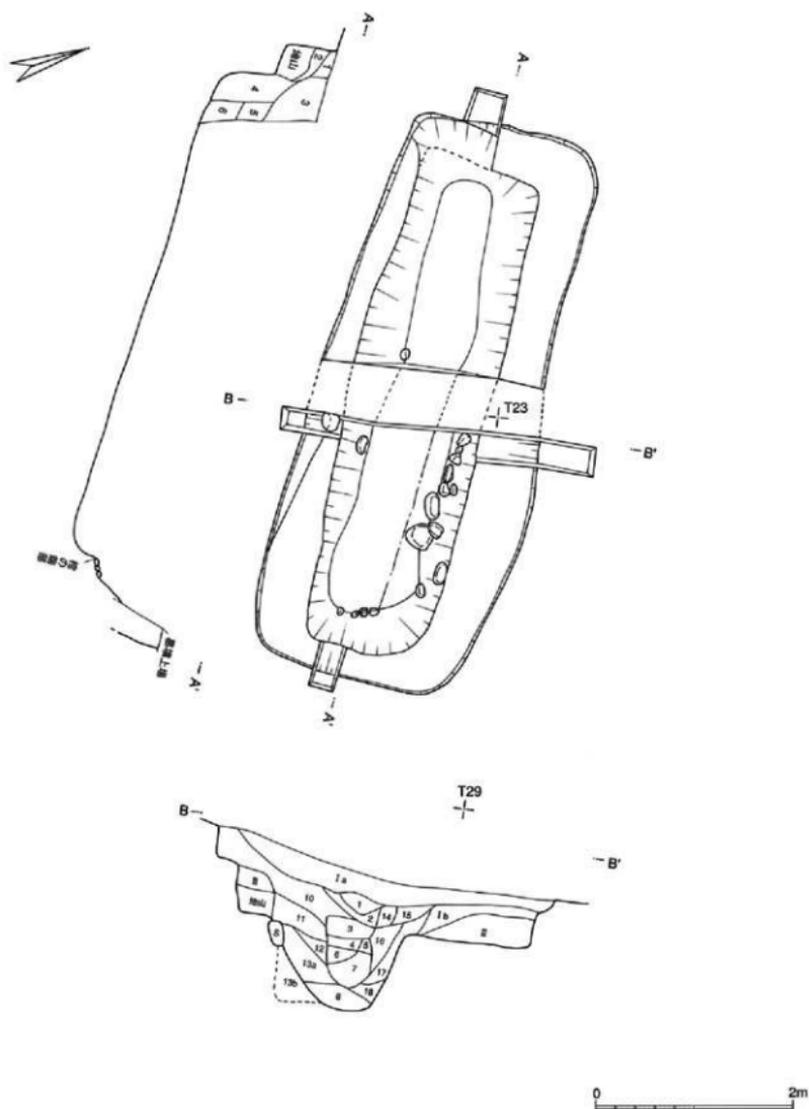
第61図 京塚古墳群6号墳セクション図(D-T)



第52図 京塚古墳群6号墳セクション図 (C-T)



第63図 京塚古墳群6号墳トレンチ平面図



第64图 京塚古墳群6号墳主体部平面图

4 まとめ

今回の調査によって得られた成果と、これまでの古墳関係の資料を整理し、京塚古墳群の年代的な位置づけと、意義について考察しまとめたい。

置賜地区に於ける古墳の発生と成立は、古墳文化が発展した他の地区と同様に、一定区域を中心とした豪族や有力者の出現が、古墳成立の基盤にあった。小規模な地区の統括から始まり次第に、広域な統括に進んでいく過程において、中心人物を埋葬したのが古墳の発生であると考えられる。

この時期の古墳としては、本市の横山古墳がある。それ以前の古墳としては、これも本市の比丘尼方形周溝墓や大清水方形周溝墓がある。これらの古墳群は、発生期の段階に位置づけられ4世紀前半～中葉の年代が想定されている。成立期は、政治的権力をもって優位にたつた集団が、他の地域と同盟、服属関係を結ぶことによって、大規模な集団に発展してゆき、「首長墓」すなわち大規模古墳を構築したと推測する。

この時期の古墳としては、本市の寶領塚古墳、そして今回調査を実施した京塚古墳が位置づけられる。年代は、4世紀中葉～4世紀後半が想定される。4世紀後半は、首長墓が次々と構築される時期で、現在の市町単位で大型の古墳が現存する。南陽市の稲荷森古墳、川西町の天神森古墳、米沢市の成島古墳群1号墳等である。これらの古墳群は置賜地区が、4世紀後半～4世紀末には古墳の被葬者によって、3地区に分かれて統括されたことを物語っている。

5世紀後半に構築された戸塚山139号墳は、置賜地区が統括されたことを示唆している。この古墳は、置賜地区東南部に位置する独立丘陵の戸塚山、山頂に構築されており、山頂からは置賜地区が一望できる。

次に、試掘調査を実施した6号墳について述べる。主体部は木棺直葬であり、墓壇は墳丘を構築後に墳頂から掘り込んでいる。墓壇の中央に木棺を設置後、明赤褐色土で埋めさらに、この土で墳頂全体を覆って仕上げている。厚さは15cm位であった。

遺物は、周溝、主体部のいずれからも出土しなかった。このため、遺物からの年代把握はできなかった。古墳の年代は主体部や、分布状況から判断すれば成島古墳に先行する4世紀後半に位置づけられる。

余談になるが、京塚古墳群が分布する広幡町上小菅地区には、置賜三十三観音の一番礼所の観音様が祭られている。一方、戸塚山古墳群が分布する戸塚山東方山麓には、置賜三十三観音の打ち止めの観音様が鎮座する。

最後になりましたが、今回の調査にあたりご協力頂きました、金田氏、金松寺の各位に心から御礼申し上げます。

参考文献

- 手塚 孝・菊地政信 2003 遺跡詳細分布調査報告書第16集 別冊「成島古墳群1号墳」
米沢市埋蔵文化財報告書第82集 米沢市教育委員会

第Ⅳ節 館山城跡関連確認調査

1 遺跡の概要

館山城跡は、市街地から西方約3km、大字館山字城山外に所在する。伊達氏と関連する当館の環境は、東側の丘陵の谷間となる底辺に、南からの大樽川、北側には小樽川が合流する舌状丘陵の標高306～317mに位置する。

遺構としては、城の丘陵の上部を平坦に整地した後、土塁と堀切、館堀等で区画して曲輪群を構築し、斜面を30mほど削平して意図的に急勾配の人口斜面等を形成している。全体を土塁と堀切、縦堀で三箇所を曲輪を区画し、東側は南の山麓から大手口をもつ曲輪Ⅰ、縦堀をへての曲輪Ⅱがある。西面を10～20m、高さ6mの大規模な土塁と北側に3m前後の小土塁と帯曲輪で区画された南北70m、東西60mの不整形の空間は主郭と考えられる。北西の隅には北の土塁が南に折れて虎口が開き、堀底道へ続く大規模な堀切が出現する。堀切は大型土塁の上端から対岸の端までの最大幅は28m、深さ20mを測る。堀切を越えると曲輪Ⅲの空間に入り、南に大規模な物見台が位置する。曲輪Ⅲは最後の縦堀と物見台の西側に堀切を有し、物見台と曲輪の接点と縦堀一部に土橋による虎口が開く（第65図）。

これらの館山城の形態から想定される年代は、土塁や堀切の発達した虎口の形態から判断すると、16世紀後半頃と推測される。

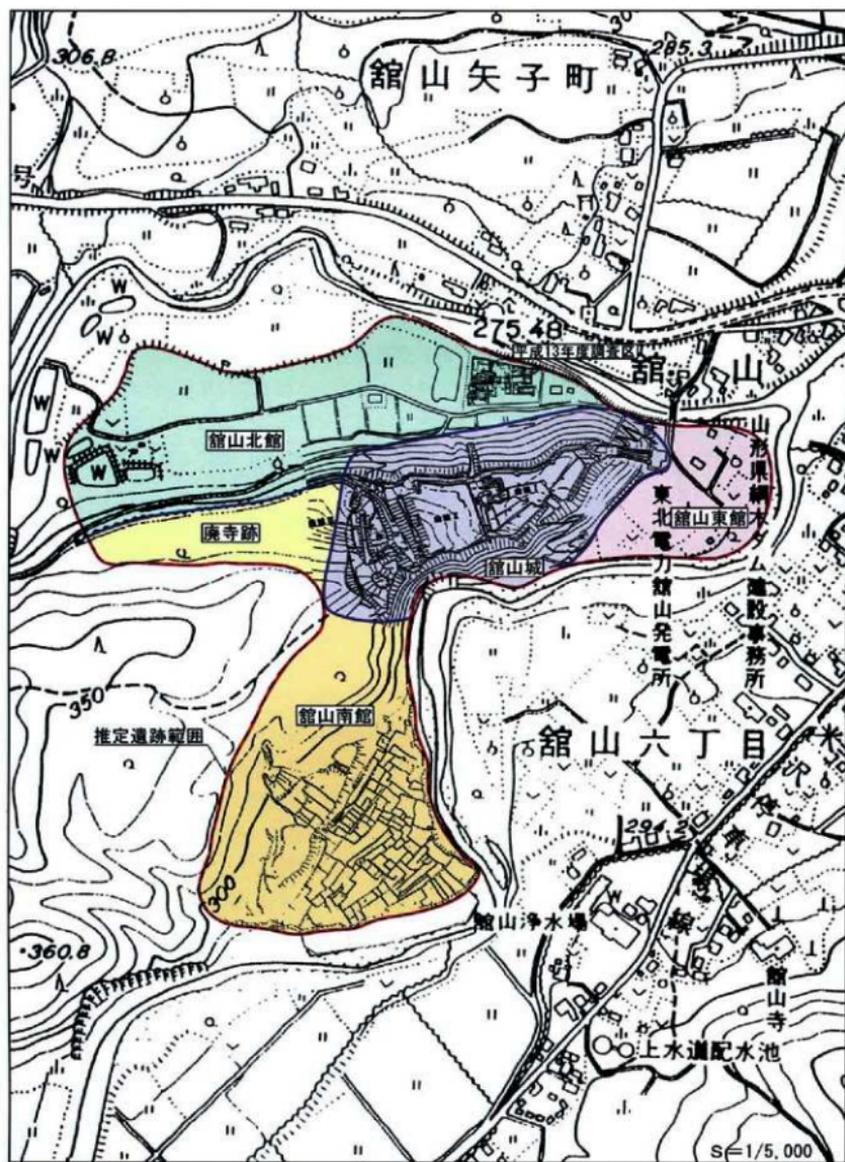
2 調査の経過（館山南館跡・館山東館跡）

館山城関連では、平成13年度に水産関係の開発に伴い国庫補助を得て、本館跡の北側にあたる館山北館跡の発掘調査を実施している。調査面積は約2,500㎡で、検出された遺構は堀立建物跡33棟の他に土壇2基・井戸跡6基・堀跡4条・集石遺構5基等がある。出土遺物は、土埴・陶磁器類・土鈴等や若干の石器があり、年代は、16世紀前半から同末頃と判断されている。

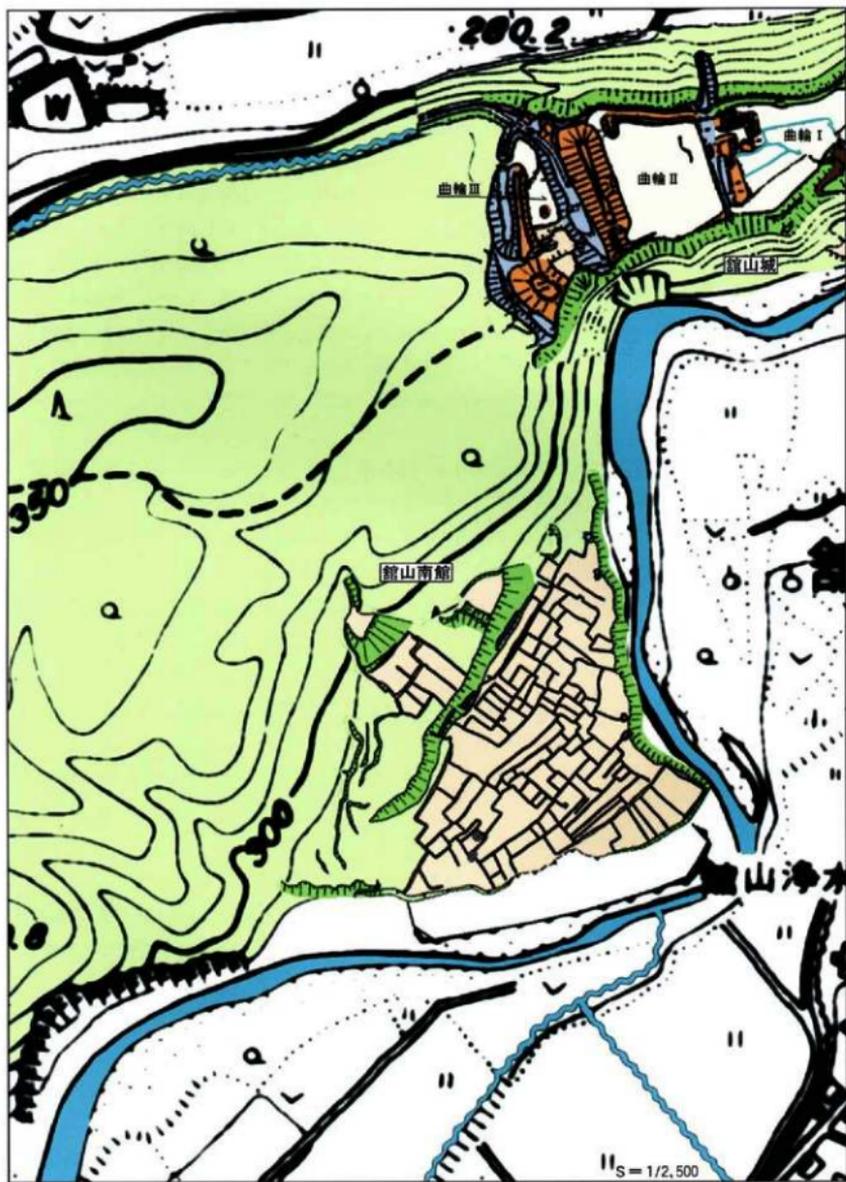
今回の調査箇所は、当南館跡範囲約50,000㎡の略測量調査（附図2）を行った。現地調査は、まず始めにトラバース基点を設定し、西側と東側方向の一直線に、20m間隔前後にT1～7を設けた。次に、基準杭T3から南側と北側方向にT8・9、同様にT5・6・15からそれぞれ南北方向にトラバース点を計47本設けた。この47本のトラバース点を基準に、平板測量を行った。縮尺は400分の1で作成し、調査は、平成15年5月6日～5月30日までの延べ16日間実施した。

調査期間は天候には恵まれたが、地目は山林及び原野になっており、笹竹や立木が鬱蒼と生い茂っていることから、基準杭（グリット杭）を打つことや測量前に立木の伐採及び下草刈りから行った。この調査箇所の標高は280～325mを測る。

館山城の東側に位置する館山東館跡の分布確認調査は、平成15年11月17日～12月5日までの延べ13日間実施した。大字館山字南橋向に所在し、当該地付近の地目は畑地、果樹園、宅地になっており、現況は館山城のほぼ直下に面し、50m程東側の大樽川に向かって平坦な河岸段丘上に立地する。大樽川との比高差約5mを有する台地状にあり、標高約270mを測る。調査面積は200㎡である。



第65図 館山城跡全体図



第66図 館山南館跡平面図

3 遺構・遺物の概要

(1) 館山南館跡

館山南館跡は、主郭となる館山城から南西200mの大樽川が「L」字状に蛇行する河岸段丘上に立地している。遺構は、第1段丘と第2段丘に分布するもので、左右に翼を広げた形状に構築しており、東西約400m、南北600m、約の240,000㎡の範囲に分布している。前者の第1段丘には、河岸段丘上を意図的に削平した人口斜面で区画するもので、山寄式の平坦部を曲輪としたテラス4箇所構成している。後者の第2段丘は、溝で区画した方形状のテラスや小規模土塁、積石塚、井戸跡に館山城から通ずる道路、河川と接続した虎口跡が確認されている。特に、方形状のテラスに関しては、昭和以前の畑地であったと伝えられている。しかし、小規模な階段状テラス群が意図的に配置されている構造は、畑としては不自然であり、むしろ米沢市の鷲城に類似している。性格については、今後の調査で明らかにしていくが、現在の段階では、館山城に対して二の丸若しくは三の丸に相当する根小屋（居館）施設と考えられる。

(2) 館山東館跡

館山東館跡の調査で確認された遺構の検出は、第IV層上面、表土下40～60cmの茶褐色細砂質シルトの地山層からで、遺構は柱穴を中心として、柱穴88基、土塼6基が確認している。

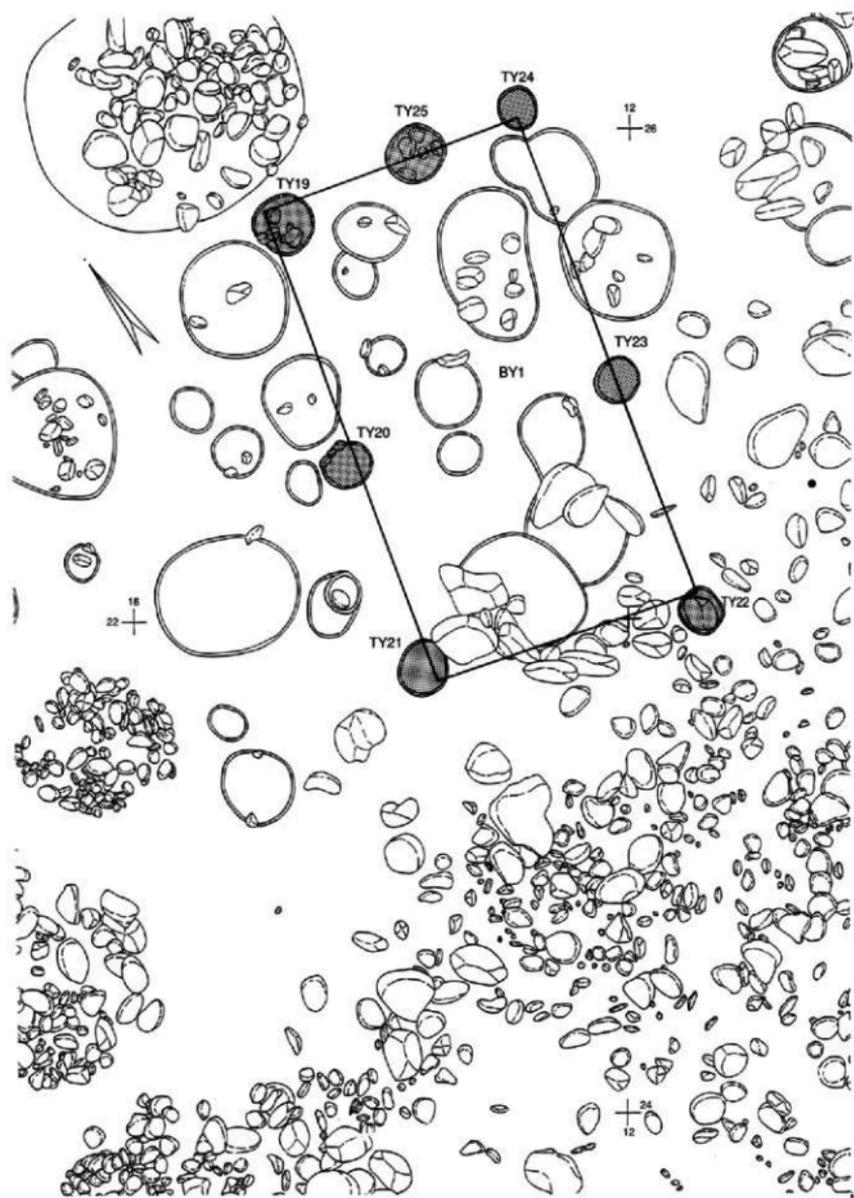
今回は確認調査であることから、全ての遺構は半裁せず代表的な柱穴4基、土塼4基のみにとどめた。柱穴の規模は、概ね平面形が40cm前後、深さ約30cmを測る。柱穴の構成によって確認された建物跡（TY19～25）は1棟のみである。土塼の規模は、平面形が1.5m前後、深さ約50cmを測る。中には、土塼の上部に集石した集石遺構が含まれる。調査区東側には、中世以降に自然の流れ込みと推測される河原石が多量に確認された。出土遺物は、調査面積が小規模であることから極めて少なく、平安時代の須恵器坏片1点、中世期の内耳取手土塼片1点、陶磁器片1点、古銭「(天禧通宝)宗時代AD1020～1771」1点の計4点のみである。遺物は小破片であることから実測図は割愛し、写真（図版3）のみ掲載した。なお、遺構全体図は附図2を参照されたい。

4 まとめ

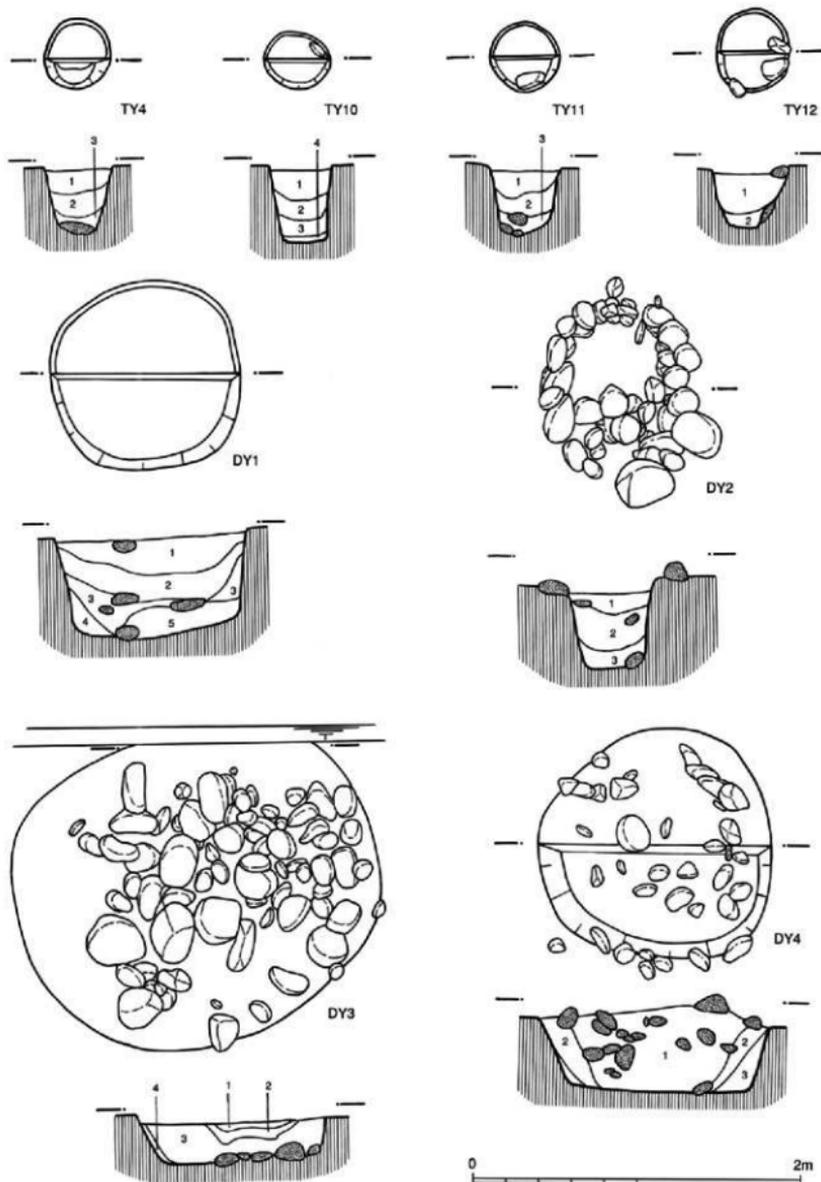
今回の調査で検出された館山東館跡は、館山城で確認された屋敷群「武家屋敷」等と共通する建物跡が存在していた可能性が高く、未調査の館山南館跡も含めた館山城を基軸とした主要曲輪（二の丸若しくは三の丸跡）と推測される。

参考文献

- 1995 山形県中世城館跡遺跡報告書「置賜版」山形県教育委員会
手塚 孝 1999「館山城跡測量調査」米沢市埋蔵文化財調査報告書 第66集 米沢市教育委員会
手塚 孝 2001「館山北館跡」米沢市埋蔵文化財調査報告書 第80集 米沢市教育委員会



第67圖 BY1 掘立建物跡平面図



第68圖 館山東館跡遺構平・断面図

報 告 書 抄 録

ふりがな	いせしよげいじんおちうきほうこくしよ							
書名	遺跡詳細分布調査報告書							
副書名								
巻次	第17集							
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第84集							
編著者名	菊地政信・月山隆弘							
編集機関	米沢市教育委員会							
所在地	〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目1-55号 TEL (0238) 22-5111							
発行年月日	2004年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おほ うれ 大 浦 B	やまがたけんよねざわし 山形県米沢市 おか た まちあざおほうれ 中田町字大浦 290-4	6202	米沢市 遺跡番号 J-245	37度 56分 39秒	140度 7分 42秒	20030421 ? 20030430	164㎡	個人住宅
きょうづつ こ んどん 京塚古墳群	やまがたけんよねざわし 山形県米沢市 ひろはたまちふるしまたかみ 広幡町成島上 こすけ 小菅	6202	米沢市 遺跡番号 I-659	37度 56分 28秒	140度 4分 33秒	20031021 ? 20031126	176㎡	確認調査
たて やま ぶせ だて 館 山 東 館	やまがたけんよねざわし 山形県米沢市 おほあざたてやまあざはし 大字館山字橋 おほあざ 向山1688	6202	米沢市 遺跡番号 G-660	37度 54分 34秒	140度 4分 8秒	20031117 ? 20031205	200㎡	確認調査
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
大 浦 B	奈良・平安・ 中世・近世	9世紀～17世紀		ピット	須恵器			
京塚古墳群	古墳	4世紀後半～ 5世紀前半		木棺直葬			新たに前方後円墳 1基と9基の円墳を 確認	
館 山 東 館	中世	16世紀		柱穴・土塼	土塼			

写真図版



▲調査区全景（南東から）



▲プラン確認状況（南東から）



▲調査風景（東方から）



▲KY1セクション（南方から）



▲大浦B遺跡出土土器



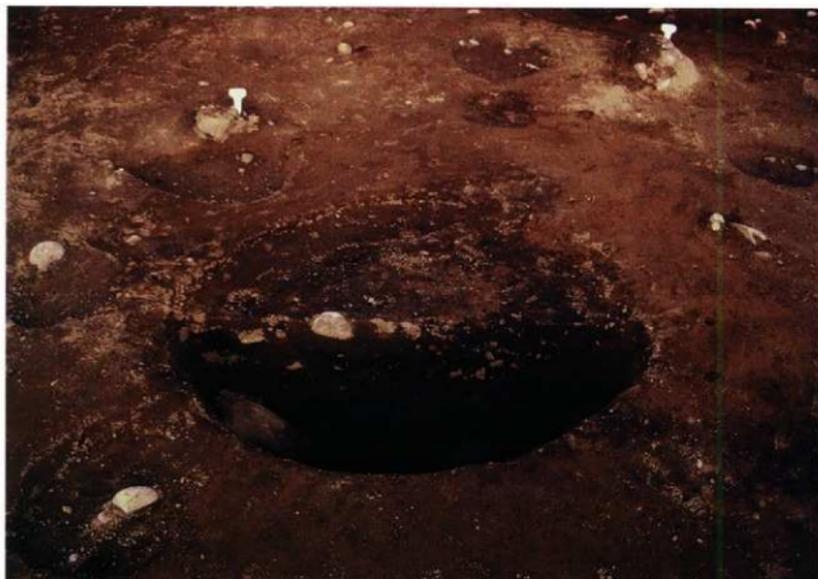
▲館山東館跡出土遺物



▲館山東館跡全景（東から）



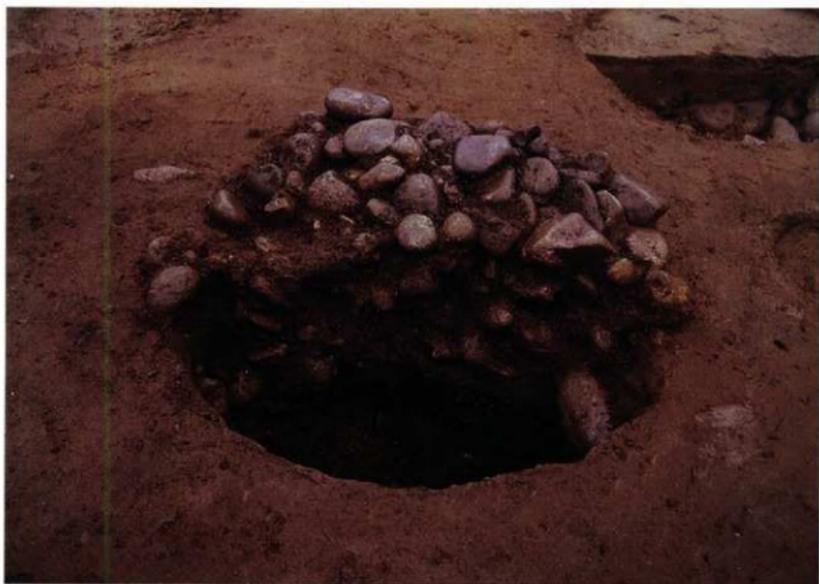
▲館山東館跡近景（南東から）



▲DY1土坑（南から）



▲DY2土坑（南から）



▲DY 3土壇（南から）



▲DY 4土壇（南から）



▲DY5土壇（西南から）



▲調査風景（西から）



▲京塚古墳群全景（北方から望む）



▲1号墳後円部近景（北西から）



▲ 6号墳全景（南東から）



▲ 6号墳発掘調査風景（南西から）



▲Cトレンチ周溝セクション状況（東南から）



▲Cトレンチ墳丘盛土セクション状況（東南から）



▲墓墳プラン確認状況（東方から）



▲主体部プラン確認状況（東方から）



▲Cトレンチ完掘状況（墳丘北方から）



▲主体部中央セクション状況（西方から）



▲主体部西端セクション状況（東南から）



▲主体部西端セクション状況（南方から）



▲主体部東端セクション状況（南東から）



▲主体部中央礫出土状況（南方から）



▲主体部掘り下げ状況（東方から）



▲主体部中央セクション状況（東方から）

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第84集
遺跡詳細分布調査報告書

平成16年3月15日 印刷

平成16年3月31日 発行

発 行 米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目1-55
T E L (0238) 22-5111
(内線 7502)

印 刷 株式会社ケムシー
米沢市通町八丁目2-43
T E L (0238) 26-2212
F A X (0238) 23-1408